

IBM DB2 Alphablox



インストール・ガイド

バージョン 8.4

IBM DB2 Alphablox



インストール・ガイド

バージョン 8.4

ご注意!

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、51 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM DB2 Alphablox for Linux, UNIX and Windows (製品番号 5724-L14) のバージョン 8 リリース 4 と、新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： GC18-9436-02
IBM DB2 Alphablox
Installation Guide
Version 8.4

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.3

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

目次

第 1 章 システム要件	1
概要	1
DB2 Data Warehouse Edition のデータベースの制限	1
言語サポート	2
サポートされているクライアント構成	3
DHTML クライアント	3
Adobe Acrobat Reader	3
統合開発環境	3
サポートされているデータベース	4
マルチディメンション・データベース	4
リレーショナル・データベース	5
DB2 Alphablox Repository - サポートされているリレーショナル・データベース	5
サポートされているサーバー構成	6
システム要件: Linux	6
システム要件: IBM AIX	7
システム要件: Sun Solaris	8
システム要件: Windows	9
アプリケーション・サーバー	9
第 2 章 インストール前	11
インストールの概要	11
Linux および UNIX のコンソール・インストール	11
インストール・タスクのチェックリスト	12
インストール前のタスク	12
すべての構成に共通なタスク	12
WebSphere クラスタ環境の使用	13
BEA WebLogic アプリケーション・サーバーの使用	14
WebLogic クラスタ環境の使用	15
SunOne (iPlanet) Web サーバーの使用	15
Microsoft IIS を使用して Apache Tomcat 構成をインストールする	15
Apache Web サーバーの使用	16
第 3 章 DB2 Alphablox のインストール	17
インストーラーの開始	17
Windows	17
Linux および UNIX	17
インストーラーのプロンプトに対する応答	18
インストールの開始: すべての構成	19
IBM WebSphere Application Server または Portal Server	20
BEA WebLogic	21
BEA WebLogic (クラスタ環境の使用)	21
Apache Tomcat の使用	21
インストールの完了: すべての構成	22
WebSphere クラスタ環境での DB2 Alphablox の使用	25
システム要件	25
IBM WebSphere クラスタ環境での DB2 Alphablox のインストール	26
WebLogic クラスタ環境での DB2 Alphablox の使用	28
システム要件	28
インストール	29
セットアップの継続	31

DB2 Alphablox と WebLogic Managed サーバーの併用	32
WebLogic 垂直クラスターでの DB2 Alphablox の使用	32
WebLogic の構成	32
DB2 Alphablox のインストール・ステップ	33
第 4 章 インストール後のタスク	35
WebSphere Application Server および WebSphere Portal Server でのインストール後のステップ	35
新規インストール	35
アップグレード	37
クラスター・サーバー	37
WebLogic でのインストール後のステップ	37
一般的なインストール後のタスク	38
DB2 Alphablox インフォメーション・センターのインストール	38
オリジナルの構成ファイルの保管	39
Microsoft IIS 固有のインストール後のステップ	39
Apache Tomcat インストール済み環境で IIS 6 を DB2 Alphablox とともに使用する	39
Apache Tomcat のインストール済み環境の IIS を使用して NTLM (または他の) セキュリティーを構成する	41
NTLM のサポートのための、IIS、WebLogic、および DB2 Alphablox の構成	41
DB2 Alphablox の開始	43
グラフィックス・カードのないサーバーを使用するか、またはリモート Telnet を使用した、Linux または UNIX 上での DB2 Alphablox の実行	44
インストール・ログとサーバー・ログの確認	44
MIME 設定	45
セキュリティと認証の構成	45
異なるスキーマを使用したデータベースに基づく DB2 Alphablox Repository の実行	45
複数のロケールをサポートするように DB2 Alphablox Repository をマイグレーションする	46
クラスター・サーバー構成での PDF 印刷の構成	47
インストールの要約	47
インストール後の注意事項	48
Windows からのアンインストール	48
Linux および UNIX システムからのアンインストール	49
サンプル・データのロード	49
特記事項	51
商標	53
索引	55

第 1 章 システム要件

DB2 Alphablox を使用すると、社内の情報の分析や適用を行うアプリケーションを短時間で開発し、Web を利用して使いやすい分析型アプリケーションを基幹業務の管理者に配信できます。これらのアプリケーションは、パフォーマンスの測定、管理、および改善といった業務に役立つので、有利な競争を展開できます。

DB2 Alphablox は、分析型のアプリケーションを短時間で開発し、配置し、使用することを目的として設計された、堅固なアーキテクチャーを提供します。

DB2 Alphablox には、リレーショナル・データ・ソースとマルチディメンション・データ・ソースの両方のサポートが組み込まれています。

この章では、DB2 Alphablox アプリケーションを実行する場合にサポートされている構成について説明します。

- 1 ページの『概要』
- 2 ページの『言語サポート』
- 3 ページの『サポートされているクライアント構成』
- 4 ページの『サポートされているデータベース』
- 6 ページの『サポートされているサーバー構成』

概要

DB2 Alphablox は、アプリケーション・サーバー、Web サーバー、データ・ソース、およびサーバー・プラットフォームを含む、強力なサーバー・サイドの分析型アプリケーション・ソリューションを提供しており、要件の大部分はサーバー・サイドに関するものです。サーバー・サイドに負担をかけることで、エンド・ユーザーの要件は最小限に抑えられます。

DB2 Data Warehouse Edition のデータベースの制限

IBM® DB2® Data Warehouse Edition (DWE) に組み込まれている DB2 Alphablox のバージョンは、ライセンス交付を受けた DB2 データベースとしか使用できないように制限されています。完全なバージョンの DB2 Alphablox では、システム要件にリストされているすべてのリレーショナル・データベースおよびマルチディメンション・データベースがサポートされます。

DWE バージョンの DB2 Alphablox では、以下に示す DB2 Alphablox データ・ソース・アダプターがサポートされます。これらは、DB2 Alphablox データ・ソース定義を作成するために使用されます。

- IBM DB2 JDBC Type 4 Driver
- Alphablox Cube Server Adapter (DB2 Alphablox Cube Server とともに使用)
- Application Server Data Source (IBM WebSphere® Application Server およびサポート対象の DB2 データベースとのみ使用できるライセンスが交付される)

- Canned Data Adapter (テストおよびデバッグ用)

DB2 Alphablox インフォメーション・センター、オンライン・ヘルプ、サンプル・アプリケーション、およびサンプル・データは、DWE 版では使用できないリレーショナル・データベースおよびマルチディメンション・データベースに言及しています。さらに、提供されているサンプル・アプリケーションとサンプル・データは、DWE 版でサポートされているリレーショナル・データ・ソースおよびマルチディメンション・データ・ソースとのみ使用できます。システム要件に記載されているすべてのデータベースをサポートする DB2 Alphablox のバージョンのライセンスを取得するには、IBM 営業担当員にお問い合わせください。

言語サポート

DB2 Alphablox は、ローカライズされたアプリケーションを作成する場合、以下の言語をサポートします。

- アラビア語
- 中国語 (簡体字)
- 中国語 (繁体字)
- チェコ語
- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- ギリシャ語
- ヘブライ語
- ハンガリー語
- イタリア語
- 日本語
- 韓国語
- ポーランド語
- ブラジル・ポルトガル語
- ロシア語
- スペイン語
- トルコ語

DHTML クライアントは、アラビア語やヘブライ語などの双方向言語について、双方向 (BiDi) テキストをサポートします。双方向言語をサポートするアプリケーションを設計する方法についての詳細は、「開発者用ガイド」の双方向言語用のアプリケーションの設計に関するトピックを参照してください。

Blox アプリケーションのユーザー・インターフェースおよびユーザー・ヘルプ (つまり、DB2 Alphablox プラットフォームで開発されたアプリケーションを使用して、エンド・ユーザーがアクセスできるインターフェースおよびオンライン・ヘルプ) は、上記のサポートされている言語で使用できます。DB2 Alphablox の管理に

使用する DB2 Alphablox の管理ページおよび関連するオンライン・ヘルプは、現在は英語のみ使用できます。特定の言語で入手できる資料に関する情報は、お近くの IBM 事業所にお問い合わせください。

サポートされているクライアント構成

DB2 Alphablox 用にサポートされているクライアント構成に関する情報を以下に記載します。

DHTML クライアント

以下の表には、DHTML クライアント用にサポートされているブラウザ構成がリストされています。

コンポーネント	最小必要要件
プラットフォーム	Pentium ベースの CPU - 600 MHz
オペレーティング・システム	Windows® XP Professional SP2。Windows 2000 Professional SP2。Red Hat Enterprise Linux® 4、3。SUSE Linux 9。AIX® 5.3、5.2。HP-UX 11.x。Solaris 10、9、8。
メモリー	256 MB
使用されるディスク・スペース*	0 MB
ブラウザ	Mozilla Firefox 1.5、1.0.7。Mozilla 1.7.8。Microsoft® Internet Explorer 6.0 SP1。
Microsoft Excel (Excel へのエクスポート用)	Excel 2003、Excel XP、Excel 2000

* 仮想メモリー、キャッシング、またはアプリケーションに使用されるディスク・スペースは含まれていません。

Adobe Acrobat Reader

PDF 機能に変換する場合、DB2 Alphablox で生成された Adobe Acrobat PDF ファイルを適切に表示するには、クライアント・マシンごとに以下のソフトウェアが必要です。

ソフトウェア	バージョン
Adobe Acrobat Reader	7.0、6.0

統合開発環境

DB2 Alphablox および DB2 Alphablox Toolkit プラグインと一緒に使用する統合開発環境として、以下のものがサポートされます。

ソフトウェア	バージョン
Rational® Application Developer	6.0.1 (英語のみ)
Rational Web Developer	6.0.1 (英語のみ)

サポートされているデータベース

DB2 Alphablox でサポートされているマルチディメンション・データベースおよびリレーショナル・データベースを以下にリストします。

マルチディメンション・データベース

以下の表には、DB2 Alphablox がサポートしているマルチディメンション・データベースがリストされています。

タイプ	バージョン
IBM DB2 Cube Views™	8.2.3 (8.1 Fix Pack 10)、8.2、8.1 Fix Pack 3
IBM DB2 OLAP Server™	8.2、7.1 Fix Pack 11。iSeries™: 8.1
IBM DB2 OLAP Server Deployment Services	8.2、8.1 Fix Pack 5
IBM DB2 OLAP Server - Hybrid Analysis	8.2、8.1 Fix Pack 5
IBM DB2 OLAP Server Integration Services	8.2、8.1 Fix Pack 5
Hyperion Essbase	System 9、7.1.3、7.1.2、7.1.1、6.5.7 以下に示すオペレーティング・システムは、Essbase 32 ビット・ブリッジを使用し、32 ビット JVM を必要とする Hyperion Essbase Adapter データ・ソース・オプションをサポートします。注: 32 ビット・ブリッジは、リストされているシステムの 32 ビットと 64 ビットの両方で使用されます。 <ul style="list-style-type: none">• Red Hat Enterprise Linux 3 on x86 (32 ビットのみ)• AIX 5.3、5.2• Sun Solaris 10、9、8• Windows 2003 Server (Standard、Enterprise Data Center) (x86 (32 ビット)) - DWE では、AMD64 (64 ビット) および EM64T (64 ビット) はサポートされません。• Windows 2000 Server (Standard、Advanced、Data Center) SP2
Hyperion Essbase Deployment Services	System 9、7.1.3、7.1.2、7.1.1、6.5.7
Hyperion Essbase Integration Services	System 9、7.1.3、7.1.2、7.1.1、6.5.7。EIS 固有のドリルスルーをサポートするには、Essbase Analytic Services (6.5.4 以降)、Essbase Integration Services (6.5.7 以降)、および Essbase Deployment Services (6.5.7 以降、Windows 版)。Hybrid Analysis もサポートされます。
Microsoft Analysis Services	SQL Server 2005 Analysis Services (Microsoft から入手可能な MSXML バージョン 6 および SQL Server 2005 Analysis Services 9.0 OLE DB Provider を DB2 Alphablox のインストール済み環境と同じマシンにインストールすることが必要); SQL Server 2000 Analysis Services SP3
SAP Business Information Warehouse (SAP BW)	3.5

リレーショナル・データベース

以下の表には、DB2 Alphablox との併用がサポートされているリレーショナル・データベースがリストされています。特に指定がない限り、32 ビットおよび 64 ビットの両方のバージョンがサポートされます。

タイプ	バージョン	ドライバー
Oracle	10g、9i	Oracle JDBC Thin Driver 10.1.0.2.0
Microsoft SQL Server	SQL Server 2005、SQL Server 2000 SP3 (32 ビット)	SQL Server 2005 Driver for JDBC; SQL Server 2000 Driver for JDBC Service Pack 2
IBM DB2 Universal Database™ (UDB) for Linux, Unix and Windows	8.2.3、8.2、8.1 Fix Pack 3 (32 ビット)、7.2 (32 ビット)。zLinux はサポートされません。	IBM タイプ 4 DB2 ドライバー*、 IBM タイプ 3 DB2 ドライバー*
IBM DB2 UDB for iSeries	V5R3 (64 ビット)	
IBM DB2 UDB for z/OS®	8.1.5	
IBM Cloudscape™	10.0 (32 ビット)	
Apache Derby	10.0 (32 ビット)	
IBM WebSphere Information Integrator	8.2.3、8.2、8.1 Fix Pack 3 (32 ビット)、7.2 (32 ビット)。zLinux はサポートされません。	IBM タイプ 4 DB2 ドライバー*、 IBM タイプ 3 DB2 ドライバー*
Informix® Dynamic Server	10、9.4	
Informix Extended Parallel Server	8.5	
IBM Red Brick™ Warehouse	6.3	
Sybase Adaptive Server	12.5 (32 ビット)、12.0 (32 ビット)	Sybase JConnect for JDBC 5.5 (ビルド 25165) EBF11248

* タイプ 3 ドライバーは、DB2 バージョン 7.2 および 8.1 をサポートしています。DB2 8.1 の場合は、タイプ 3 ドライバーは推奨されていないので、タイプ 4 ドライバーを使用することをお勧めします。ドライバーの修正パッケージのバージョンは、接続先のデータベース上のバージョンと正確に一致していなければなりません。

DB2 Alphablox Repository - サポートされているリレーショナル・データベース

以下の表には、DB2 Alphablox Repository との併用がサポートされているリレーショナル・データベースが一覧で示されています。特に指定がない限り、32 ビットおよび 64 ビットの両方のバージョンがサポートされます。

タイプ	バージョン
Oracle	10g、9i
Microsoft SQL Server	SQL Server 2005、SQL Server 2000 SP3 (32 ビット)
IBM DB2 Universal Database (UDB)	8.2.3、8.2、8.1 Fix Pack 10、8.1 Fix Pack 2。 zLinux はサポートされません。
IBM Cloudscape	10.0 (32 ビット)
Apache Derby	10.0 (32 ビット)
Informix Dynamic Server	10 (32 ビット)、9.4 (32 ビット)

サポートされているサーバー構成

以下のトピックでは、DB2 Alphablox がサポートされるサーバーの構成要件について解説します。

- 6 ページの『システム要件: Linux』
- 9 ページの『システム要件: Windows』
- 8 ページの『システム要件: Sun Solaris』
- 7 ページの『システム要件: IBM AIX』
- 9 ページの『アプリケーション・サーバー』

システム要件: Linux

以下の表には、DB2 Alphablox を Linux システムにインストールする場合のシステム要件がリストされています。

コンポーネント	最小必要要件
プラットフォーム*	x86 CPU、x86_64 CPU、または PPC64 CPU - 1GHz 以上
オペレーティング・システム	Red Hat Enterprise 4: x86 (32 ビット)、AMD64 (64 ビット)、EM64T (64 ビット)、および POWER™ (64 ビット: SP1 が必要)。Red Hat Enterprise Linux 3: x86 (32 ビット)。SuSe Linux Enterprise Server 9: x86 (32 ビット)、AMD64 (64 ビット)、EM64T (64 ビット)、および POWER (64 ビット: SP1 が必要)。
メモリー - RAM	1 GB
使用されるディスク・スペース**	Alphablox ディレクトリー用に 300 MB、インストール時の一時ディレクトリー用にさらに 200 MB
Web サーバー (オプション)***	Apache HTTP Server 2.0 (WebSphere Application Server との併用時のみ)
アプリケーション・サーバー	BEA WebLogic アプリケーション・サーバーは、現在 Linux ではサポートされていません。9 ページの『アプリケーション・サーバー』も参照してください。
Java™ VM	J2SE SDK 1.4.x (またはアプリケーション・サーバー - J2SE SDK)

コンポーネント	最小必要要件
X11 ライブラリー	DB2 Alphablox を正常に始動するには、X11 ライブラリーを Linux システムにインストールしなければなりません。44 ページの『グラフィックス・カードのないサーバーを使用するか、またはリモート Telnet を使用した、Linux または UNIX 上での DB2 Alphablox の実行』も参照してください。

- * DB2 Alphablox は X Server ウィンドウから開始しなければなりません。詳細については、44 ページの『グラフィックス・カードのないサーバーを使用するか、またはリモート Telnet を使用した、Linux または UNIX 上での DB2 Alphablox の実行』を参照してください。
- ** 仮想メモリー、キャッシング、またはアプリケーションに使用されるディスク・スペースは含まれていません。
- *** DB2 Alphablox は Apache Tomcat 3.2.4 も Web アプリケーション・サーバーとして使用できます。別の Web サーバーと DB2 Alphablox を併用する場合は、両方とも同じマシンにインストールしてください。iPlanet または IIS を Web サーバーとして使用する場合は、DB2 Alphablox の単一インスタンスのみサポートされます。DB2 Alphablox と独立型 Web サーバーを別々のマシン上で使用することに関する情報は、DB2 Alphablox お客様サポートにお問い合わせください。
- + 複数の仮想 Web サーバーと IIS の併用はサポートされていません。

システム要件: IBM AIX

以下の表には、DB2 Alphablox を IBM AIX システムにインストールする場合の最低限のシステム要件がリストされています。

コンポーネント	最小必要要件
プラットフォーム*	PPC64 CPU
オペレーティング・システム	AIX 5.3、5.2
メモリー - RAM	512 MB
使用されるディスク・スペース	DB2 Alphablox ディレクトリー用に 500 MB、インストール時の一時ディレクトリー用にさらに 450 MB
Web サーバー (オプション)**	SunOne (iPlanet) 6.0、Apache HTTP Server 2.0 (WebSphere および WebLogic アプリケーション・サーバーとの併用時のみ)
アプリケーション・サーバー	9 ページの『アプリケーション・サーバー』を参照。
Java VM	J2SE SDK 1.4.2 (または Application Server SDK)
グラフィックス・カード	AIX サーバーにグラフィックス・カードがインストールされている必要があり、X Server のカラー深度の設定は 8 ビット以上でなければなりません。

コンポーネント	最小必要要件
X11 ライブラリー	DB2 Alphablox が正しく始動するには、X11 ライブラリーを AIX システムにインストールしなければなりません。44 ページの『グラフィックス・カードのないサーバーを使用するか、またはリモート Telnet を使用した、Linux または UNIX 上での DB2 Alphablox の実行』も参照してください。

* DB2 Alphablox は X Server ウィンドウから開始しなければなりません。詳細については、44 ページの『グラフィックス・カードのないサーバーを使用するか、またはリモート Telnet を使用した、Linux または UNIX 上での DB2 Alphablox の実行』を参照してください。

** Web アプリケーション・サーバーの働きをする Apache Tomcat 3.2.4 と DB2 Alphablox を併用することもできます。別の Web サーバーと DB2 Alphablox を併用する場合は、両方とも同じマシンにインストールしてください。DB2 Alphablox と独立型 Web サーバーを別々のマシン上で使用することに関する情報は、DB2 Alphablox お客様サポートにお問い合わせください。

システム要件: Sun Solaris

以下の表には、DB2 Alphablox を Sun Solaris システムにインストールする場合のシステム要件がリストされています。

コンポーネント	最小必要要件
プラットフォーム*	Sun UltraSPARC Workstation
オペレーティング・システム	Solaris 10、Solaris 9、および Solaris 8**
メモリー - RAM	512 MB
使用されるディスク・スペース	DB2 Alphablox ディレクトリー用に 400 MB、インストール時の一時ディレクトリー用にさらに 250 MB
Web サーバー (オプション)***	SunOne (iPlanet) 6.0、Apache HTTP Server 2.0 (WebSphere および WebLogic アプリケーション・サーバーとの併用時のみ)
アプリケーション・サーバー	9 ページの『アプリケーション・サーバー』を参照。
Java VM	J2SE SDK 1.4.2_05 (または Application Server SDK)
グラフィックス・カード	Solaris サーバーにグラフィックス・カードがインストールされている必要があり、X Server のカラー深度の設定は 8 ビットまたは 16 ビットでなければなりません。グラフィックス・カードをインストールしていない場合、44 ページの『グラフィックス・カードのないサーバーを使用するか、またはリモート Telnet を使用した、Linux または UNIX 上での DB2 Alphablox の実行』を参照してください。

* DB2 Alphablox は X サーバー・ウィンドウから開始しなければなりません。詳細については、44 ページの『グラフィックス・カードのないサーバーを使用するか、またはリモート Telnet を使用した、Linux または UNIX 上での DB2 Alphablox の実行』を参照してください。

- ** Sun から推奨されている Solaris 用のパッチをインストールします。ダウンロードの場合は、<http://sunsolve.sun.com/> を参照してください。
- *** Web アプリケーション・サーバーの働きをする Apache Tomcat 3.2.4 と DB2 Alphablox を併用することもできます。別の Web サーバーと DB2 Alphablox を併用する場合は、両方とも同じマシンにインストールしてください。DB2 Alphablox と独立型 Web サーバーを別々のマシン上で使用することに関する情報は、DB2 Alphablox お客様サポートにお問い合わせください。

システム要件: Windows

以下の表には、DB2 Alphablox を Microsoft Windows システムにインストールする場合のシステム要件がリストされています。

コンポーネント	最小必要要件
プラットフォーム	x86 CPU - 1 GHz 以上
オペレーティング・システム	Windows Server 2003 (Standard、Enterprise、および Data Center)。ただし、x86 (32 ビット) SP1。 Windows 2000 Server (Standard、Advanced、および Data Center) SP4
メモリー - RAM	512 MB
使用されるディスク・スペース*	DB2 Alphablox ディレクトリー用に 400 [®] MB、インストール時の一時ディレクトリー用にさらに 200 MB
Web サーバー (オプション)**	SunOne (iPlanet) 6.0。Microsoft IIS ⁺ 6.0、5.0.1。Apache HTTP Server 2.0 (WebSphere および WebLogic アプリケーション・サーバーとの併用時のみ)
アプリケーション・サーバー	9 ページの『アプリケーション・サーバー』を参照。
Java VM	J2SE SDK 1.4.2 (または Application Server J2SE SDK)

- * 仮想メモリー、キャッシング、またはアプリケーションに使用されるディスク・スペースは含まれていません。
- ** DB2 Alphablox は Apache Tomcat 3.2.4 も Web アプリケーション・サーバーとして使用できます。別の Web サーバーと DB2 Alphablox を併用する場合は、両方とも同じマシンにインストールしてください。SunOne (iPlanet) または IIS を Web サーバーとして使用する場合は、DB2 Alphablox の単一インスタンスのみサポートされます。DB2 Alphablox と独立型 Web サーバーを別々のマシン上で使用することに関する情報は、DB2 Alphablox お客様サポートにお問い合わせください。
- + 複数の仮想 Web サーバーと IIS の併用はサポートされていません。

アプリケーション・サーバー

以下の表には、DB2 Alphablox 用にサポートされている J2EE アプリケーション・サーバーがリストされています。

注: DB2 Alphablox はアプリケーション・サーバーの一部として実行されるので、DB2 Alphablox とアプリケーション・サーバーは同じマシン上に置かれていなければなりません。

アプリケーション・サーバー	バージョン	コメント
Apache Tomcat	3.2.4	<p>すべてのプラットフォーム上で 32 ビット Java VM を使用してサポートされます。64 ビット Java VM は Solaris を除く、64 ビットに対応したすべてのプラットフォームでサポートされます。</p> <p>Apache Tomcat 3.2.4 はアプリケーション・サーバーの一部として自動的にインストールされません。このオプションを使用する場合は、DB2 Alphablox のインストールを行う前に、このアプリケーション・サーバーをインストールしなければなりません。サポート済みの Apache Tomcat 3.2.4 バージョンは、以下の URL から入手できます。</p> <p>http://archive.apache.org/dist/tomcat/tomcat-3/archive/v3.2.4/.</p>
BEA WebLogic	8.1.4	<p>クラスタリングは、サポート対象の AIX、Solaris、および Windows 上でサポートされます。Linux 上ではサポートされません。</p>
IBM WebSphere Application Server	6.0 以上、5.1.1 以上。	<p>Express 版もサポートされています。デフォルトのポート番号は 2 つのバージョン間で違うことに注意してください (Enterprise バージョンの場合は 9080、Express バージョンの場合は 7080)。</p> <p>クラスタリングはすべてのプラットフォームでサポートされます。</p>
IBM WebSphere Portal Server	5.1.0.2、5.1	<p>Express 版もサポートされています。バージョン 5.1.0.2 は、IBM WebSphere Application Server 6.0 および 5.1 上でサポートされます。バージョン 5.1 は、WebSphere Application Server 5.1 上でサポートされます。</p>

第 2 章 インストール前

この章では、インストールの概要を示し、DB2 Alphablox インストーラーを稼働する前に実行する必要があるステップについて説明します。

- 11 ページの『インストールの概要』
- 12 ページの『インストール・タスクのチェックリスト』
- 12 ページの『インストール前のタスク』
 - 12 ページの『すべての構成に共通なタスク』
 - 13 ページの『WebSphere クラスター環境の使用』
 - 14 ページの『BEA WebLogic アプリケーション・サーバーの使用』
 - 15 ページの『WebLogic クラスター環境の使用』
 - 15 ページの『SunOne (iPlanet) Web サーバーの使用』
 - 15 ページの『Microsoft IIS を使用して Apache Tomcat 構成をインストールする』
 - 16 ページの『Apache Web サーバーの使用』

インストールの概要

DB2 Alphablox インストール・プロセスにより、DB2 Alphablox がインストールされ、選択したアプリケーション・サーバーと共にシステム上で実行するよう構成されます。

DB2 Alphablox インストーラーには、インストール・プロセスのガイドを行う GUI ベースのウィザードが組み込まれています。Linux および UNIX[®] マシンの場合は、コンソール・ベースのインストーラーも使用できます。

サポートされているアプリケーション・サーバーのいずれかを使用して DB2 Alphablox をインストールしなければなりません。サポートされているアプリケーション・サーバーのリストについては、9 ページの『アプリケーション・サーバー』を参照してください。

インストーラーは、アプリケーション・サーバーを使用するインストールのプロセスをガイドします。DB2 Alphablox インストーラーを開始する前に、アプリケーション・サーバーのインストールと構成が適切に行われていなければなりません。

Linux および UNIX のコンソール・インストール

DB2 Alphablox インストーラーには GUI ベースのウィザードが組み込まれており、サポートされているほとんどの Linux および UNIX マシンで使用できます。X Windows ライブラリーを使用できないマシンのコンソール・ウィンドウから DB2 Alphablox をインストールする必要がある場合は、コンソール・インストーラーを使用できます。Windows マシンから Linux または UNIX マシンへの Telnet セッションを使用して、Linux または UNIX マシンでコンソール・ベースのインストールを実行する場合も、コンソール・ベースのインストールを使用できます。

Linux および UNIX プラットフォームでコンソール・インストーラーを使用するには、17 ページの『インストーラーの開始』で説明されている手順に従い、インストーラーからコンソール・インストールを開始するか尋ねられたときにオプション 1 を選択してください。

インストール・タスクのチェックリスト

以下の表には、DB2 Alphablox のインストールに必要な大まかなタスクと、個々のタスクに関する情報が記載されている箇所へのリンクがリストされています。

タスク	相互参照
1 適切なシステム要件を満たしていることを確認します。	1 ページの『第 1 章 システム要件』
2 インストール・プロセスと、インストール先のアプリケーション・サーバーの構成を識別して理解します。	11 ページの『インストールの概要』
3 ご使用のアプリケーション・サーバーに固有のタスクを含む、インストール前タスクを実行します。	12 ページの『インストール前のタスク』
4 アプリケーション・サーバー固有のタスクに従っていることを確認しながら、DB2 Alphablox をインストールします。	17 ページの『第 3 章 DB2 Alphablox のインストール』
5 一般的なインストール後タスクと、アプリケーション・サーバー固有のインストール後タスクを実行します。	35 ページの『第 4 章 インストール後のタスク』
6 DB2 Alphablox 8.4 インフォメーション・センターをインストールします。	

インストール前のタスク

DB2 Alphablox をインストールする前に、以下のタスクを実行する必要があります。

すべての構成に共通なタスク

DB2 Alphablox インストーラーを実行する前に、以下のタスクを実行してください。

1. サーバー・マシンに必要な構成仕様があることを確認します。詳細については、6 ページの『サポートされているサーバー構成』を参照してください。
2. DB2 Alphablox の既存のインスタンスをアップグレードする場合は、アップグレードする前にサーバーをシャットダウンします。
3. DB2 Alphablox リポジトリ用にリレーショナル・データベースを使用する場合は、データベースがセットアップ済みで、このデータベースに接続するためのデータベース固有の構成情報がすべてそろっていることを確認します。
4. 必要な JDBC ドライバー (5 ページの『リレーショナル・データベース』を参照) を、インストール・マシン上の JDBC ドライバーのみを入れるディレクトリ

ーにコピーします。インストール中に、このディレクトリー内のサポートされている JDBC ドライバーを使用できます。

5. システムに関する必要な管理権限があることを確認します。
 - Windows システムの場合は、インストールに使用する Windows 2000 または Windows Server 2003 マシンに対する管理者特権があることを確認します。
 - Linux および UNIX システムの場合は、インストール先のファイル・システムに対する完全なアクセス権 (読み取り、書き込み、実行) があることを確認します。

WebSphere クラスタ環境の使用

WebSphere Application Server クラスタ環境に DB2 Alphablox をインストールする場合は、以下の点に注意してください。

- IBM WebSphere Application Server と Network Deployment Manager が同じマシン上にある場合は、別々のポートを定義しなければなりません。この点は、Network Deployment Manager によって管理されるノードとして WebSphere を追加する予定の場合にも当てはまります。
- Windows ドメインのある Windows 中の WebSphere クラスタを使用する場合は、ユーザーに以下の権限があることを確認します。
 - オペレーティング・システムの一部として行動する権限
 - サービスとしてログオンする権限
 - Windows ネットワーク管理者 (ドメイン管理者が設定する) になる権限
- Linux または UNIX で WebSphere クラスタを使用する場合は、ルート特権を持つユーザーがあることを確認します。

クラスタ・モードで WebSphere Application Server を使用するには、以下のステップを実行してください。

1. WebSphere をマシン 1 にインストールします。
2. WebSphere をマシン 2 にインストールします。
3. WebSphere Network Deployment Manager をマシン 3 (またはマシン 1 か 2、この場合はポート番号が違うことを確認する) をインストールします。
4. 以下のディレクトリーにある startManager.bat (Windows) または startManager.sh (Linux または UNIX) バッチ・ファイルを使用して、WebSphere Network Deployment Manager を開始します。

```
<websphere_dir>/DeploymentManager/bin/
```

5. マシン 1 に進み、WebSphere をノード形式で Network Deployment Manager に追加します。

```
<websphere_dir>/AppServer/bin/addNode <DM_HOST>  
<SOAP_CONNECTOR_PORT>
```

デフォルト・ポートは 8884 です。

6. マシン 2 でステップ 5 を繰り返します。
7. 以下のステップに従って、マシン 1 およびマシン 2 の WebSphere HTTP ポートの別名 (デフォルトは 9080) を、仮想ホストのデフォルト・ホストに追加します。

- a. WebSphere 管理コンソールに進みます。
 - b. 「環境」 > 「仮想ホスト」を選択します。
 - c. 「default_host」をクリックします。
 - d. 「追加のプロパティ」で「ホスト別名」を選択し、「ホスト名」と「ポート」(WebSphere HTTP ポートに設定)を使って、新しいホスト別名を追加します。
8. これで、クラスター・オプションを選択してクラスターを作成し、 WebSphere サーバーを追加できます。

注: addNode コマンドでノード・エージェントは自動的に開始されますが、サーバーは開始されません。したがって、以下のディレクトリーにあるサーバー開始コマンド (Windows の場合は addNode.bat、Linux または UNIX の場合は addNode.sh) を使用して、サーバーを開始する必要があります。

```
<websphere_dir>/AppServer/bin/
```

または、Alphablox の管理ページを使用できます。

注: Network Deployment Manager とそのすべてのノードを停止してから再開する際には、手動でノードを開始する必要があります。そのためには、すべてのノード・マシンから startNode.bat (Windows) または startNode.sh (Linux または UNIX) コマンドを実行してください。コマンド・ファイルは以下のディレクトリーにあります。

```
<websphere_dir>/AppServer/bin/
```

このコマンドによりノード・エージェントは自動的に開始されますが、サーバーは開始されません。したがって、以下のディレクトリーにある startServer.bat (Windows) または startServer.sh (Linux または UNIX) コマンドを使用して、サーバーを開始する必要があります。

```
<websphere_dir>/AppServer/bin/
```

WebSphere クラスター環境での DB2 Alphablox の構成とインストールについて詳しくは、26 ページの『IBM WebSphere クラスター環境での DB2 Alphablox のインストール』を参照してください。

BEA WebLogic アプリケーション・サーバーの使用

BEA WebLogic アプリケーション・サーバー中で DB2 Alphablox を実行する場合は、Alphablox インストーラーを実行する前に以下のタスクを実行しなければなりません。

1. WebLogic アプリケーション・サーバーをインストールします。9 ページの『アプリケーション・サーバー』で説明されている、サポートされている WebLogic バージョンであることを確認してください。WebLogic のインストールについて詳しくは、BEA Product Documentation (<http://edocs.bea.com>) でオンラインで入手できる BEA WebLogic の資料を参照してください。
2. WebLogic 構成ウィザードを使用して、ドメインを作成します。
3. WebLogic サーバーを開始します。
4. WebLogic コンソールを開きます。

5. WebLogic 上に 1 人以上のユーザーを作成します。例えば、DB2 Alphablox の Apache Tomcat 構成中のデフォルト管理ユーザーと等しいユーザーを作成するには、名前が admin でパスワードが password のユーザーを作成します。
 - a. AlphabloxAdministrator というグループを、適切なレルムの Security の下に作成します。
 - b. AlphabloxUser という別のグループを、適切なレルムの Security の下に作成します。
 - c. AlphabloxAdministrator という役割を構成し、呼び出し側がグループ AlphabloxAdministrator および AlphabloxUser の一員であるという条件を追加します。
 - d. AlphabloxUser という役割を構成し、呼び出し側がグループ AlphabloxUser の一員であるという条件を追加します。
 - e. admin という名前のユーザーを作成し、このユーザーを AlphabloxAdministrator および AlphabloxUser グループに追加します。

WebLogic でのグループの作成および変更については、BEA Product Documentation (<http://edocs.bea.com>) でオンラインで入手できる BEA WebLogic の資料を参照してください。

WebLogic クラスタ環境の使用

WebLogic クラスタ環境での Alphablox のインストール前構成とインストールについて詳しくは、28 ページの『WebLogic クラスタ環境での DB2 Alphablox の使用』を参照してください。

SunOne (iPlanet) Web サーバーの使用

SunOne (iPlanet) Web サーバーを使用して Apache Tomcat 構成をインストールする場合は、以下のタスクを実行してください。

1. ご使用のマシンに Web サーバーがインストールされて構成されていることを確認します。
2. Web サーバーに対する管理アクセス権があることを確認します。この権限があれば、Web サーバーでの作業中に読み取り、書き込み、削除、および作成特権があることになります。
3. DB2 Alphablox インストール・プログラムを開始する前に、Web サーバーをシャットダウンしなければなりません。

Microsoft IIS を使用して Apache Tomcat 構成をインストールする

IIS Web サーバーを使用して Apache Tomcat 構成をインストールする場合は、以下のタスクを実行してください。

1. ご使用のマシンに Web サーバーがインストールされて構成されていることを確認します。

重要: 正常にインストールや再インストールを行うには、IIS に Scripts ディレクトリーがなければなりません。IIS サーバーから Scripts ディレクトリーを削除しないでください。

2. IIS を使用する場合は、Web サーバー・セキュリティーか DB2 Alphablox セキュリティーのどちらを使用するか決めます。IIS 使用時のセキュリティーをセットアップするのに必要なタスクについて詳しくは、「管理者用ガイド」の『セキュリティーと認証』を参照してください。
3. DB2 Alphablox のインストールを開始する前に、Web サーバーをシャットダウンしなければなりません。

Apache Web サーバーの使用

Apache Tomcat 構成をインストールし、Apache Web サーバーを使用する場合は、以下のタスクを実行してください。

1. ご使用のマシンに Web サーバーがインストールされて構成されていることを確認します。
2. Web サーバーに対する管理アクセス権があることを確認します。この権限があれば、Web サーバーでの作業中に読み取り、書き込み、削除、および作成特権があることとなります。
3. DB2 Alphablox のインストールを開始する前に、Web サーバーをシャットダウンしなければなりません。
4. Web サーバーの開始前に DB2 Alphablox を開始します。これにより、DB2 Alphablox は Web サーバーに必要なファイルを作成できます。
5. DB2 Alphablox を停止してから Web サーバーを開始します。これにより、Web サーバーが開始するたびに DB2 Alphablox が正しく開始されるようになります。

第 3 章 DB2 Alphablox のインストール

この章では、DB2 Alphablox を Linux、UNIX、および Windows システムにインストールする手順について説明します。

- 17 ページの『インストーラーの開始』
- 18 ページの『インストーラーのプロンプトに対する応答』
- 25 ページの『WebSphere クラスター環境での DB2 Alphablox の使用』
- 28 ページの『WebLogic クラスター環境での DB2 Alphablox の使用』
- 32 ページの『DB2 Alphablox と WebLogic Managed サーバーの併用』
- 32 ページの『WebLogic 垂直クラスターでの DB2 Alphablox の使用』

インストーラーの開始

システム要件 (1 ページの『第 1 章 システム要件』を参照) を確認し、11 ページの『第 2 章 インストール前』で説明されている必要なタスクを実行し終わったら、DB2 Alphablox のインストールを開始する準備ができています。ご使用のオペレーティング・システムに応じて、下記のステップに従ってください。

Windows

Windows プラットフォームで DB2 Alphablox インストーラーを開始するには、以下のステップを実行してください。

1. CD-ROM をドライブに挿入します。DB2 Alphablox インストーラーが自動的に立ち上がり、間もなく先頭画面が表示されます。

注: Microsoft Analysis Services を DB2 Alphablox と共に使用する予定の場合は、インストールを進める前に、Microsoft Data Access Components (MDAC) および Microsoft PivotTable Services の最低限必要なバージョンをインストールする必要があります。

2. Windows プラットフォーム上で、18 ページの『インストーラーのプロンプトに対する応答』にある残りのインストール手順を続行します。

Linux および UNIX

Linux および UNIX プラットフォームで DB2 Alphablox インストーラーを開始するには、以下のステップを実行してください。

1. CD ドライブからインストールする場合は、インストール用 CD ドライブをマウントします。
2. 最上位のインストール・ディレクトリー (CD-ROM のマウント先のディレクトリーまたはファイルの展開先のディレクトリー) に移動します。以下に例を示します。

```
cd /cdrom
```
3. 以下のコマンドを入力し、install.sh スクリプトを実行してインストールを開始します。

```
./install.sh
```

4. デフォルトのグラフィック・インストーラーを実行するか、それともコンソール・インストーラーを実行するかを選択します (詳しくは、11 ページの『Linux および UNIX のコンソール・インストール』を参照してください)。
5. インストーラーによりインストール・ファイルが解凍されてから、先頭画面が出力されます。大きなファイルをアンパックする必要があるため、このプロセスには数分かかることがあります。残りのインストール手順については、18 ページの『インストーラーのプロンプトに対する応答』を参照してください。

インストーラーのプロンプトに対する応答

17 ページの『インストーラーの開始』で説明されているとおりにインストーラーを開始した後で、以下のステップを実行してインストールを続行してください。

事前定義済みのインストール・オプションの 1 つを選択するか、またはカスタム・オプションを選択して必要な特定のコンポーネントを選択することにより、DB2 Alphablox のインストールを特定の状態に合わせて調整できます。以下の表には、DB2 Alphablox インストーラーで使用できるインストール・オプションがリストされています。

インストール設定	説明
コンパクト	DB2 Alphablox の最小限のインストール。ツール、ユーティリティ、およびヘルプ (エンド・ユーザー/管理者) が組み込まれます。
標準 (デフォルト)	コンパクト・インストールにアプリケーション (FastForward、例、クエリー・ビルダー) を加えたもの。インストール、管理、および開発に関する資料 (Javadoc、DHTML クライアント、および Relational Reporting) が組み込まれます。
カスタム	インストールする機能をカスタマイズするには、このオプションを選択します。 重要: このオプションを使用する際には注意してください。例えば、標準インストールを行った後に、カスタム・インストール設定オプションを使用し 2、3 のコンポーネントを選択してインストールしようとする、新しく選択したコンポーネント・ファイル以外のファイルがインストーラーにより除去される可能性があります。

注: 以下のステップは、デフォルトのグラフィカル・インストーラーを使用した場合に基づいています。Linux または UNIX の場合に、オプションのコンソール・インストーラーを使用すると、プロンプトがコマンド行プロンプトになったり、グラフィカル・インストーラーと多少の違いがあったりしますが、同じ機能が提供されます。

インストールの開始: すべての構成

いずれの構成の場合でも、DB2 Alphablox インストーラー・プロセスを開始するには、以下のステップを実行してください。

1. インストーラーの開始後に、**DB2 Alphablox インストール**の初期画面が表示されます。「次へ」ボタンをクリックします。
2. 「**ご使用条件 (License Agreement)**」画面が表示されます。インストールを続行するには、このスクロール可能ウィンドウに表示されるご使用条件の条件を受諾しなければなりません。「ご使用条件の条件を受諾します (I accept the terms of the License Agreement)」のラジオ・ボタンを選択してから、「次へ」ボタンをクリックします。
3. 「**インスタンスの名前とロケーションの選択**」画面で、デフォルトのインスタンス名 (AlphabloxAnalytics) を受け入れるか、または新しい名前を選択します。さらに、DB2 Alphablox のインストール先として、デフォルトの宛先ディレクトリーを受け入れるか、別の場所を指定します。「次へ」をクリックします。
4. 次の「**インストール設定の選択 (Select Installation Set)**」画面を使用すると、この項の冒頭で説明されている事前定義済みのインストール設定を選択するか、カスタム・インストール設定かを選択できます。デフォルトでは、標準インストール設定が選択されています。「次へ」をクリックします。

新規インストールを実行する場合:

DB2 Alphablox を新規インストールする場合は、ご使用の構成に対応する以下の項目に従ってインストールを続行してください。

- 20 ページの『IBM WebSphere Application Server または Portal Server』
- 21 ページの『BEA WebLogic』
- 21 ページの『Apache Tomcat の使用』

アップグレードする場合:

旧バージョンの DB2 Alphablox のインストール先のディレクトリーが選択されていることを検出すると、DB2 Alphablox インストーラーはアップグレード・モードになります。以下の手順は、旧バージョンのインストール済み環境をアップグレードするために実行できるステップについて解説しています。

1. DB2 Alphablox インストーラーの開始後に、「**IBM DB2 Alphablox 8.4 インストール (IBM DB2 Alphablox 8.4 Installation)**」の画面が表示されます。概要を読み終わったら、「次へ」を押します。
2. 「**ご使用条件 (License Agreement)**」画面が表示されます。先に進むには、「ご使用条件の条件を受諾します (I accept the terms of the License Agreement)」画面を選択してから、「次へ」を押します。
3. 「**インスタンスの名前とロケーションの選択**」画面で、「**サーバー・インスタンス名**」および「**宛先ディレクトリー**」を確認します。以前のインストール済み環境のサーバー・インスタンス名がデフォルト値 (AlphabloxAnalytics) と異なる場合には、「**サーバー・インスタンス名**」フィールドに正しいインスタンス名が入力されているかどうかを確認します。
4. 「次へ」を押します。

5. 「インストール設定の選択 (Select Installation Set)」画面で、使用するインストール設定を選択します。アップグレードの場合は、以前のインストールで使用したインストール設定を選択し、「次へ」を押します。
6. 「アップグレードの確認」画面が表示されます。この画面を使用して選択内容を確認してから「ステップバイステップ」または「自動アップグレード」オプションのどちらかを選択できます。アプリケーション・サーバーの設定に変更が必要でない限り、「自動アップグレード」を選択します。
7. 「次へ」を押すと、インストールが開始します。

インストールの完了後に、ブラウザー・ウィンドウが表示され、インストール・ログ・ファイルが表示されます。インストール中に問題が発生した場合は、エラー・メッセージと警告メッセージが表示されます。

IBM WebSphere Application Server または Portal Server

DB2 Alphablox をインストールして IBM WebSphere Application Server または IBM WebSphere Portal Serverと併用するには、以下のステップを実行してください。

注: Windows に DB2 Alphablox と WebSphere をインストールする場合:

Windows システム上の WebSphere サーバーに DB2 Alphablox をインストールし、Microsoft Analysis Services データ・ソースに接続する際には、WebSphere サーバーのインストールと DB2 Alphablox のインストールは両方とも同じ Windows ユーザーが実行しなければなりません。同じユーザーでない場合は、DB2 Alphablox は Microsoft Analysis Services の接続に失敗します。

1. 19 ページの『インストールの開始: すべての構成』で説明されているとおりに、インストールの最初の部分を実行します。
2. WebSphere サーバーをシャットダウンします。
3. 「アプリケーション・サーバーの選択」画面で、ドロップダウン・リストから「WebSphere」オプションを選択します。
4. 「次へ」ボタンをクリックします。インストーラーにより警告ウィンドウがポップアップされ、WebSphere をシャットダウンしてから続行するようにアラートが出されます。WebSphere サーバーがシャットダウンしていることを確認してください。シャットダウンしていないと、インストールは正常に完了しません。
5. 次の画面で、WebSphere ルート・ディレクトリー (WebSphere のインストール先の <websphere_dir>/AppServer ディレクトリー) を入力します。インストーラーにより WebSphere 構成ファイルが参照され、デフォルト値が判別されます。
6. 「WebSphere サーバーの選択 (Choose WebSphere Server)」画面で、ドロップダウン・リストから WebSphere サーバーを選択してから、「次へ」をクリックします。
7. 「WebSphere 設定の検査 (Verify WebSphere Settings)」画面で、接続の詳細を確認してから管理者のログイン情報を入力します。
8. 22 ページの『インストールの完了: すべての構成』のステップを使用してインストールを続行します。

BEA WebLogic

DB2 Alphablox をインストールして BEA WebLogic アプリケーション・サーバーと共に実行するには、以下のステップを実行してください。

1. 14 ページの『BEA WebLogic アプリケーション・サーバーの使用』で説明されているとおりに、WebLogic の場合のインストール前タスクを実行します。
2. 19 ページの『インストールの開始: すべての構成』で説明されているとおりに、インストールの最初の部分を実行します。
3. WebLogic サーバーをシャットダウンします。
4. 「アプリケーション・サーバーの選択」画面が表示された際には、「既存のアプリケーション・サーバーを使用したインストール」を選択してから、ドロップダウン・リストから「**WebLogic8**」オプションを選択します。
5. 「次へ」ボタンをクリックします。インストーラーは、WebLogic をシャットダウンしてから続行するように警告します。WebLogic をシャットダウンしないと、インストールは正常に完了しません。
6. **WebLogic の場合:**
 - a. WebLogic ドメイン・ホーム (<BEA_Home>/user_projects/domains/ など) と、weblogic.jar ファイルがある WebLogic ディレクトリー (<bea_home>/weblogic81/server/lib/ など) を入力します。WebLogic ドメイン名、WebLogic サーバー名、および始動ファイルに関する適切な値を選択するか入力します。始動ファイルについては、ドメイン固有の startWebLogic.cmd (Windows) または startWebLogic.sh (Linux および UNIX) ファイルと、ドメイン固有の installService.cmd ファイルを選択します。
 - b. 「次へ」をクリックしてから、WebLogic 管理者のユーザー名とパスワードを入力します。

WebLogic Portal の場合: 上記の WebLogic に関するステップに従った後で、「ブラウズ」ボタンをクリックし、WebLogic サーバー始動ファイル (普通は <BEA_Home>%portal%bin%win32%startWebLogic.cmd 中にある) を選択します。(注: 「始動ファイル」選択ボックス内に取り込まれているリストは無視してください。) サービス・ファイル (普通は <BEA_Home>%portal%bin%win32%installWebLogicService.cmd にある) へのパスを設定します。

7. 22 ページの『インストールの完了: すべての構成』にあるインストールを続行します。

BEA WebLogic (クラスター環境の使用)

28 ページの『WebLogic クラスター環境での DB2 Alphablox の使用』を参照してください。

Apache Tomcat の使用

Apache Tomcat を使用して実行するよう DB2 Alphablox をインストールするには、以下のようにインストールを続行してください。

1. 「アプリケーション・サーバーの選択」画面で、「Tomcat」を選択して「次へ」をクリックしてから、Apache Tomcat ルート・ディレクトリーの場所を入力します。該当する選択を行ったら、「次へ」ボタンをクリックします。

注: Apache Tomcat 3.2.4 は自動的にインストールされません。このステップでは、事前にインストールされた Apache Tomcat 3.2.4 のインストール場所を指す必要があります。

2. 「DB2 Alphablox の構成 (Configure DB2 Alphablox)」画面で、インストーラーにより、Web サーバーが稼働しているポート番号が検索され、最小および最大 JRE ヒープ・サイズのデフォルト値が挿入されます。デフォルトを受け入れるか設定を変更してから、「次へ」ボタンをクリックします。

注: 許容されている最大ヒープ・サイズは 2047 MB で、最小ヒープ・サイズは 32 MB です。

重要: 外部 Web サーバーを使用して DB2 Alphablox をインストールするには、ご使用の Web サーバーを停止しなければなりません。Web サーバーの実行中にロックされる構成ファイルを更新するには、Web サーバーをオフにする必要があります。Web サーバーが実行中であることがインストーラーによって検出されると、シャットダウンするよう求められます。

3. 『インストールの完了: すべての構成』にあるインストールを続行します。

インストールの完了: すべての構成

すべての構成で、インストールを続行するには、以下のステップに従ってください。

1. 「DB2 Alphablox の構成 (Configure DB2 Alphablox)」画面で、以下について新しい値を入力するかデフォルト値を受け入れます。
 - 「Telnet コンソール・ポート」: DB2 Alphablox に対する Telnet コンソールにアクセスできるポート。ご使用のシステムで使用できるポートを選択しなければなりません。
 - 「サーバー・ログ・ファイル名」: アクティブな DB2 Alphablox ログ・ファイルの名前。
 - 「コンソール・メッセージ・レベル」: コンソールおよびログ・ファイルに送信されるメッセージのレベル。
 - 「SMTP サーバー」: ネットワーク上の SMTP メール・サーバーの名前。Eメールを送信するようアプリケーションをセットアップできます。

注: DB2 Alphablox 管理ページを使用して、後でこれらの値を変更することもできます。

2. 「J2SE SDK ロケーションの選択」画面で、サポートされている J2SE SDK 1.4 バージョンのインストール先のディレクトリーを入力します。「次へ」をクリックします。
3. 「JDBC ドライバーを使用可能にする」画面が表示され、そこでは、「バンドルされた DB2v8 ドライバーの組み込み」が選択されています。「ディレクトリーにあるその他のドライバーの追加」オプションを選択してから、JDBC ドライバーのインストール先のディレクトリーへブラウザすることもできます。

ディレクトリーを選択したら、「**JDBC ドライバーを使用可能にする**」ボタンをクリックして、サポートされているすべてのドライバーを使用可能にしてください。JDBC ドライバーを選択したら、「**次へ**」をクリックします。

注: サポートされているドライバーは、JDBC ドライバーのみを入れるディレクトリー、つまりこの目的のために排他的に作成したディレクトリー (例えば、JDBCDrivers というハード・ディスク上のディレクトリー) または JDBC ドライバーのみが入るいずれかのディレクトリーに入れられなければなりません。

注: データベースを使用する DB2 Alphablox リポジトリーを使用するか、Relational Reporting 機能を使用するには、JDBC ドライバーを使用可能にしなければなりません。

注: 旧バージョンの DB2 Alphablox からアップグレードする場合、旧バージョンの <db2alphablox_dir/lib と、WebSphere サーバーの WebSphere/AppServer/lib/ext ディレクトリーを JDBC ドライバーの位置として使用することはできません。

4. 「**リポジトリーの構成**」画面で、データベース・リポジトリーまたはファイル・リポジトリーを使用して実行するよう DB2 Alphablox を構成できます。ファイル・リポジトリーの場合は、「**ファイル**」ボタンを選択してから、「**次へ**」ボタンをクリックします。ステップ 12 にスキップします。

注: リポジトリー変換ユーティリティーを実行して、インストール後に設定を変更できます。リポジトリー変換ユーティリティーとさまざまなリポジトリーのタイプに関する情報は、「**管理者用ガイド**」を参照してください。

5. DB2 Alphablox リポジトリーとしてリレーショナル・データベースを使用するには、「**リポジトリーの構成**」画面で「**データベース**」をクリックします。
6. ドロップダウン・リストからデータベースのタイプを選択します。例えば、Oracle を使用する場合は、ドロップダウン・リストから「**Oracle**」を選択します。
7. 選択したデータベース・タイプに関する構成情報をすべて入力します。すべてのフィールドの値を入力して、必ずリポジトリー・データベース所有者のユーザー名とパスワードを使用します。適切な値が分からない場合は、データベース管理者に尋ねます。
8. すべてのデータベース構成情報を入力し終えたら、「**次へ**」ボタンをクリックします。情報が欠落している場合は、インストーラーにより入力するよう求められます。
9. アプリケーションを実行して、構成したデータベースに接続しようとすることを示す画面が、インストーラーにより表示されます。「**OK**」ボタンをクリックします。正常に接続すると、以下のようなメッセージが表示されます。

データベース接続テストが成功しました

「**OK**」ボタンを押して先へ進みます。

正常に接続しなかった場合は、問題を訂正してから接続を再試行します。

10. 「**クラスタリングの構成**」画面で、ご使用の構成に該当するラジオ・ボタンを選択します。

- 「**スタンドアロン**」：クラスター構成で実行していない場合は、この設定を使用します。
 - 「**先導ノード**」：クラスター構成で実行しており、インストールするインスタンスがクラスターの先導ノードの働きをする場合は、この設定を使用します。先導ノードをセットアップする場合は、ご使用のサーバーの IP アドレスまたはホスト名、クラスターが listen するポート番号、クラスター中のホストの最大数、および起動時間を入力するかデフォルトを受け入れます。
 - 「**通常ノード**」：クラスター構成で実行しており、インストールするインスタンスがクラスターの先導ノードにならない場合は、この設定を使用します。
11. 「**変換ユーティリティー設定の選択 (Configure Conversion Utility)**」画面を使用して、クラスタリング・オプションと、既存のリポジトリから新しいリポジトリに変換するオプションの値を入力します。

注：リポジトリ変換ユーティリティーを実行し、「**クラスター・オプション (Cluster Options)**」管理ページを編集して、インストール後に設定を変更できます。リポジトリ変換ユーティリティー、さまざまなリポジトリのタイプ、およびクラスタリング・オプションに関する情報は、「**管理者用ガイド**」を参照してください。

「**変換ユーティリティーの構成**」画面で、既存の (ソース) リポジトリ (存在する場合) を新しい (宛先) リポジトリに変換する方法に関するオプションを設定します。使用できる「**変換操作**」は以下のとおりです。

- 「**コピー**」：ソース・リポジトリを同じ場所に残し、そのコピーを宛先リポジトリに作成します。
- 「**変更**」：アクティブ・リポジトリを宛先リポジトリに変更します。
- 「**移動**」：ソース・リポジトリを削除し、新しいリポジトリを宛先リポジトリに作成します。

「**サーバー・プロパティーの移動**」ドロップ・リストで、サーバー・プロパティー・ファイルを、インストールする DB2 Alphablox のインスタンスにマイグレーションする方法を指定します。このドロップダウン・リスト内のオプションは以下のとおりです。

- 「**すべて**」：すべてのサーバー・プロパティーを変換するよう指定します。
- 「**グローバル**」：クラスターによって共有されるプロパティーのみ変換される (ローカル・マシン項目は変換されない) よう指定します。
- 「**特定**」：ローカル・マシンに固有のサーバー・プロパティーのみ変換される (クラスター・プロパティーは変換されない) よう指定します。

「**既存のリポジトリ表**」ドロップ・リストで、リポジトリ変換ユーティリティーがリポジトリ中の既存の表を処理する方法を指定します。

- 「**更新**」：宛先リポジトリの内容が置き換えられるのではなく、移動またはコピー操作により宛先リポジトリがソース・リポジトリの情報で更新されるよう指定します。
- 「**上書き**」：既存の表を削除してから再作成します。

「ユーザー定義の DDL スキーマ・ファイル」ボックスで、リポジトリ用のデータベース・オブジェクトを作成する、デフォルトの DDL ファイルの代わりに使用する DDL ファイルを指定します。ご使用の DDL ファイルを十分にテストしていない場合は、このボックスにチェック・マークを付けないでください。ほとんどのインストールの場合に、デフォルトの DDL ファイルで十分です。

「変換ユーティリティの構成」画面の情報をすべて入力し終えたら、「次へ」ボタンをクリックします。

12. 「プリインストールの要約 (Pre-Installation Summary)」画面で、選択したオプションを確認します。オプションを変更する必要がある場合は、「前へ」ボタンをクリックして、以前の画面に移動し、構成を訂正します。すべてのオプションが正しいように思える場合は、「インストール (Install)」ボタンをクリックして、DB2 Alphablox をインストールします。インストールには数分かかります。
13. インストールが完了すると、「DB2 Alphablox のインストールが完了しました」画面が表示されます。「完了」ボタンをクリックします。ブラウザ・ウィンドウにインストール・ログが表示されます。
14. インストール・ログ中に ARBORPATH 環境変数に関するメッセージがある場合には、ご使用のマシン上に既に DB2 OLAP Server または Essbase がインストールされており、DB2 Alphablox を Windows サービスとして実行すると 2 つのインストールが競合する可能性があります。この警告を受け取った場合に、DB2 Alphablox を Windows サービスとして実行する予定の場合は、DB2 OLAP Server または Essbase のシステム管理者と連絡を取って、ARBORPATH 環境変数が指している DB2 OLAP Server または Essbase のバージョンが DB2 Alphablox と互換性があるかどうかを判別してください。競合が解決しない場合は、DB2 Alphablox を Windows サービスとして実行すると、DB2 OLAP Server または Essbase に接続できない可能性があります (インストールされている DB2 OLAP Server または Essbase のバージョンによる)。
15. 35 ページの『第 4 章 インストール後のタスク』で定義されているインストール後タスクを実行します。

WebSphere クラスタ環境での DB2 Alphablox の使用

システム要件

クラスタ環境で DB2 Alphablox を操作するには、以下の要件を満たしていなければなりません。

- 水平方向のクラスタリング環境の場合、複数のコンピューターがそれぞれ同じバージョンの DB2 Alphablox を実行しなければなりません。垂直方向のクラスタリング環境の場合、1 つ以上のマシンが必要です。
- DB2 Alphablox の個々のインスタンスが同じ DB2 Alphablox リポジトリにアクセスするように構成されていなければなりません。このリポジトリはリレーショナル・データベース中になければなりません。
- DB2 Alphablox の個々のインスタンスで、WebSphere アプリケーション・ディレクトリーにあるアプリケーションの内容が同一でなければなりません。共有ファ

イル・システムでアプリケーション・ディレクトリーを共有するか、または個々のコンピューター上にアプリケーション・ディレクトリーを複製することができます。

- 個々のノードで、DB2 Alphablox のインストール・ディレクトリーへのパスが同一でなければなりません。(例: c:\Program Files\IBM\DB2 Alphablox)
- クラスターの個々のコンピューターに静的 IP アドレスがなければなりません。

注: DB2 Alphablox は、ロード・バランシング・ソフトウェアのセッション類縁性 (またはスティッキー・セッション) 設定のみサポートしています。

IBM WebSphere クラスター環境での DB2 Alphablox のインストール

クラスター環境で構成された IBM WebSphere アプリケーション・サーバー中で DB2 Alphablox を実行する場合は、DB2 Alphablox インストーラーを実行する前に以下のタスクを実行してください。

1. DB2 Alphablox のインストールを試行する前に、WebSphere Network Deployment サーバー、アプリケーション・サーバー、クラスター・サーバー、および WebSphere Web Server プラグイン(plugin-cfg.xml) が、問題なく作動することを確認します。
2. DB2 Alphablox のインストールを開始する前に、ノード上の WebSphere アプリケーション・サーバーおよび管理サーバーをすべてシャットダウンします。
3. クラスターの各マシンに DB2 Alphablox をインストールします。その際、「**WebSphere の構成 (Configure WebSphere)**」画面で「クラスター・サーバーへインストール」オプションを必ず選択します。インストール中に DB2 Alphablox のためにデータベース・リポジトリーを選択してから、DB2 Alphablox のインストール済み環境ごとに「先導ノード」オプションを選択します。
4. すべての WebSphere クラスター・サーバーおよび Network Deployment サーバーを開始します。
5. Network Deployment サーバーで管理コンソールを開きます。
6. 「アプリケーション」>「新規アプリケーションのインストール (Install New Application)」を選択します。
7. 「アプリケーション・インストールの準備 (Preparing for the application installation)」画面で、「ブラウズ (Browse)」ボタンを押して、以下のパスを選択します。

`db2alphablox_dir/installableApps/AlphabloxPlatform.ear`

続いて、「次へ」をクリックします。

注: ネットワーク全体をブラウズして `AlphabloxPlatform.ear` ファイルを見付けるには、サーバー・パス設定の使用が必要になる場合があります。

8. 次の画面には、「**デフォルトのバインディング・オプション (Default Bindings Options)**」が表示されます。別のバインディングが必要な場合以外はデフォルト設定のままにして、「次へ」をクリックします。

9. 「アプリケーション・セキュリティー警告 (Application Security Warning)」画面が表示されます。このページの下部にスクロールし、「続く (Continue)」ボタンをクリックします。
10. ダイアログ内に表示されるように、次のセクションの「新規アプリケーションのインストール (Install New Application)」は、以下の 5 つのステップから成ります。

ステップ 1: 「インストール実行オプションの指定 (Provide options to perform the installation)」

既存の設定のままにして、「次へ」を押してかまいません。

ステップ 2: 「Web モジュール用仮想ホストのマップ (Map virtual hosts for web modules)」

既存の値を受け入れて、「次へ」を押します。

ステップ 3: 「モジュールのアプリケーション・サーバーへのマップ (Map modules to application servers)」

モジュールを WebSphere クラスタにマップしてから、「次へ」を押します。

ステップ 4: 「セキュリティー役割のユーザー/グループへのマップ (Map security roles to users/groups)」

2 つの役割 AlphabloxAdministrator および AlphabloxUser が表示されるはずです。役割ごとに 1 つ以上のユーザーを追加する必要があります。

AlphabloxAdministrator 役割の場合、この役割の前のチェック・ボックスにチェック・マークを付けてから、「ユーザーのルックアップ (Lookup Users)」または「グループのルックアップ (Lookup Groups)」ボタンを押して、管理ユーザーを追加します。1 人以上のユーザーを選択しなければなりません。ユーザーまたはグループを追加し終えたら、この役割の「マップされたユーザー (Mapped Users)」または「マップされたグループ (Mapped Groups)」の値の中にリストされるはずです。

AlphabloxUser 役割の場合、この役割の「すべて認証済み (All Authenticated)」列の下のチェック・ボックスにチェック・マークを付けます。こうすると、すべての認証済みユーザーがアプリケーションにアクセスできます。

完了したら、「次へ」を押します。

ステップ 5: 「サマリー (Summary)」

この画面の下部にスクロールし、「完了 (Finish)」ボタンを押します。

11. アプリケーションが配置され、「アプリケーション AlphabloxPlatform が正常にインストールされました (Application AlphabloxPlatform installed successfully)」が表示されます。「マスター構成への保管 (Save to Master Configuration)」リンクをクリックします。

12. 「マスター構成への保管 (Save to Master Configuration)」ダイアログが表示されるはずですが、「保管」ボタンを押します。その後間もなく、管理コンソールのホーム・ページに戻ります。
13. 次に、上記のステップ 9 から 13 を繰り返して Application Studio をインストールしますが、今回は installableApps ディレクトリーの ApplicationStudio.ear を選択します。
14. 管理コンソールのナビゲーション・メニューで「アプリケーション (Applications)」>「エンタープライズ・アプリケーション (Enterprise Applications)」を選択し、サーバーにあるアプリケーションのリストを開きます。
15. AlphabloxPlatform のアプリケーション名をクリックしてから、「構成 (Configuration)」タブをクリックします。構成テーブルが表示されます。
16. 「開始の重み付け (Starting Weight)」設定を見つけて、値として 1000 を入力します。これにより、他のすべてのアプリケーションがロードされてから AlphabloxPlatform アプリケーションが開始することになります。
17. この画面の一番下までスクロールして、「OK」を押します。その後、構成の保管を必ず 2 回行います。これには、マスター構成への保管も含まれます。
18. クラスター化された WebSphere サーバーの 1 つを始動し、DB2 Alphablox がデータベース内に必要なリポジトリ・オブジェクトをすべて作成できるようにします。WebSphere ログ・ファイルを検証して、エラー・メッセージがなく、DB2 Alphablox が正常に始動しており、「リポジトリ操作が正常に完了しました (Repository operation completed successfully)」というメッセージが表示されていることを確認します。
19. WebSphereWeb サーバー・プラグインを再生成し、Web サーバーを実行しているマシンに新しく生成した plugin-cfg.xml ファイルをコピーします。
20. クラスター内のサーバーをすべてシャットダウンします。
21. 残りのすべての WebSphere サーバーに DB2 Alphablox をインストールします。その際、「WebSphere の構成 (Configure WebSphere)」画面で「クラスター・サーバーへインストール」オプションに必ずチェック・マークを付けます。残りのサーバーそれぞれに同じデータベース・リポジトリを選択しますが、「通常ノード」オプションを選択します。

これで、DB2 Alphablox がクラスター・サーバー環境に正しくインストールされ、構成されているはずですが。

WebLogic クラスター環境での DB2 Alphablox の使用

システム要件

DB2 Alphablox には、WebLogic コンソールを使用せず、またサーバーを再始動する必要もなく、J2EE アプリケーションの作成、削除、変更、またはインポートを行うアプリケーション管理機能があります。これらの機能は、以下のいずれかの構成が使用されている場合のみ使用できます。

1. WebLogic Admin Server でもある単一の WebLogic サーバーに DB2 Alphablox がインストールされた構成

2. WebLogic Admin Server と同じマシン中にある単一の WebLogic サーバーに DB2 Alphablox がインストールされた構成
3. 物理的に独立している Managed Server 上に、クラスター・モードで DB2 Alphablox がインストールされ、ファイル共有を使用してすべてのサーバーが同じアプリケーション・ディレクトリーを指す構成 (注: BEA 社はこのオプションを推奨していません)。このオプションを選択した場合は、32 ページの『DB2 Alphablox と WebLogic Managed サーバーの併用』にリストされているタスクも実行しなければなりません。

Alphablox 社は、WebLogic クラスター中で DB2 Alphablox を使用する場合に、開発者がクラスターを配置する前に最初の 2 つのオプション (上記の 1 または 2) のいずれかを使用してアプリケーションの開発、テスト、およびデバッグを行うことを推奨しています。

注: WebLogic クラスタリング環境で DB2 Alphablox を使用する際には、以下の制約が適用されます。

- フェイルオーバーはサポートされていません。
- DB2 Alphablox は、ロード・バランシング・ソフトウェアのセッション類縁性 (またはスティッキー・セッション) 設定のみサポートしています。

標準装備の WebLogic ロード・バランシング・ソフトウェアおよびラウンドロビン・オプションを使用して、WebLogic クラスタリング環境でロード・バランシングを使用する場合は、BEA 社は奇数 (3 以上) のサーバーを使用するか、またはフォーム・ベースの認証を使用することを推奨しています。(どちらのオプションも使用しないと、偶数のサーバーに負荷がかかります。)

インストール

WebLogic クラスターを使用して、クラスター化された DB2 Alphablox 環境をセットアップするには、以下のステップをすべて実行してください。他にもセットアップする方法はありますが、それらの手順にも以下に説明されているほとんどのステップを含めなければなりません。

1. WebLogic の資料で定義されているとおりに WebLogic クラスターをセットアップします。
2. WebLogic を 3 つのマシンにインストールしており、そのうちの 1 つが WebLogic Admin Server で、他の 2 つが WebLogic Managed Server であることを確認します。
3. すべての DB2 Alphablox インストール済み環境が同じパスにあることを確認します。
4. 独立型 WebLogic システムを構成しているかのように、DB2 Alphablox を WebLogic Admin Server にインストールします。すべてのシステムは、データベース・バージョンの DB2 Alphablox リポジトリーを使用します。
5. 1 つ目の Managed Server に DB2 Alphablox をインストールし、先導ノードとして構成します。
6. 他の Managed Server に DB2 Alphablox をインストールし、通常ノードとして構成します。
7. WebLogic Admin Server を開始します。

8. Web ブラウザーで以下の URL を指して、WebLogic コンソールを始動します。

`http://<serverName>:7001/console`

9. 以下のステップに従って、アプリケーションごとに、アプリケーションのターゲットをクラスターに設定します [代わりに、`config.xml` ファイルを手動で編集して、以下の変更を加えることもできます]。

注: 後で必要になる場合に備えて、オリジナルの `config.xml` ファイルのバックアップ・コピーを作成することもできます。

- a. 「**配置 (Deployments)**」 > 「**アプリケーション (Applications)**」 > 「**AlphabloxPlatform**」の下で、「**AlphabloxAdmin**」を選択します。
 - b. 右側のフレームから「**ターゲット (Target)**」タブを選択します。
 - c. 「**クラスター (Cluster)**」タブを選択します。
 - d. 「**使用可能 (Available)**」の下に、作成したクラスターが表示されるはずです。このクラスターを選択して、「**選択 (Chosen)**」に移動します。
 - e. 「**適用 (Apply)**」をクリックします。
 - f. すべての DB2 Alphablox アプリケーションについて、これらのステップを繰り返します。
 - g. 「**デフォルト Web アプリケーション**」以外のすべてのアプリケーションが Admin Server を指していないことを確認します。
10. 該当するロード・バランシング・ソフトウェアをご使用のシステム用に構成します。BEA 社が提供している `HttpClusterServlet` を使用してロード・バランシングをテストできます。このサーブレットの使用法について詳しくは、BEA WebLogic サーバーの資料を参照してください。このロード・バランシング・サーブレットを構成するステップを以下に示します。
 - a. 「**デフォルト Web アプリケーション**」のターゲットを、Admin Server およびクラスターに設定します。
 - b. WebLogic 中で admin ユーザーを作成してあることを確認します (『インストール前』の、14 ページの『BEA WebLogic アプリケーション・サーバーの使用』のステップ 4 を参照してください)。
 - c. WebLogic 管理コンソールにログインします。
 - d. 「**Web アプリケーション (Web Applications)**」の下の「**DefaultWebApp**」を選択します。
 - e. 「**Web アプリケーション配置記述子の編集 (Edit Web Application Deployment Descriptors)**」をクリックします。
 - f. `HttpClusterServlet` という名前の新しいサーブレットを構成します。
 - g. サーブレット・クラスは `weblogic.servlet.proxy.HttpClusterServlet` です。
 - h. このサーブレットの下に `DebugConfigInfo` パラメーターを追加し、値を ON に設定します。
 - i. `HttpClusterServlet` の下に別のパラメーター `WebLogicCluster` を追加し、以下の値を設定します。

`<server1>:7001:7002|<server2>:7001:7002`

server1 および server2 は WebLogic Managed Server です。

- j. HttpClusterServlet の場合、以下のサブレット・マッピングを作成します。
 - 1) *.htm
 - 2) *.jsp
 - 3) *.html
 - 4) /
- k. 上記の変更をすべて保存します。

注: HTTPClusterServlet はテスト専用の目的で使用することを想定しており、実稼働環境で使用することは想定されていません。このサブレットを実稼働環境で使用すると、クラスターにパフォーマンスの問題が生じる可能性があります。

セットアップの継続

1. 個々の WebLogic Managed Server 開始スクリプトで、以下の Java プロパティを追加します。

```
-Dalphablox.admin.appserver.multiMachine=true
```

追加場所は、以下のテキストの前、

```
webLogic.Server
```

および以下のプロパティの後です。

```
-Dalphablox.weblogic.admin.password=<password>
```

注: このプロパティは、アプリケーションを他のシステムにコピーする必要があることを、このサーバーに指示します。DB2 Alphablox 管理ページを使用して DB2 Alphablox アプリケーションを作成すると、通知アラートが表示されるはずですが、

2. HttpClusterServlet の構成がロード・バランシング・ソフトウェアとして正しく機能していることを検証します。web.xml ファイル中で HttpClusterServlet を定義している <servlet> ブロックに以下の <init-param> ブロックを追加して、DebugConfigInfo パラメーターを ON に設定します。

```
<init-param> <param-name>DebugConfigInfo</param-name>  
<param-value>ON</param-value> </init-param>
```

3. Web ブラウザーを使用して、以下の URL にアクセスします。

```
http://serverName:port/placeholder.jsp?_WebLogicBridgeConfig
```

myServer は HttpClusterServlet を使用して要求をプロキシしている WebLogic サーバー・インスタンス、port は HTTP 要求を listen しているサーバー上のポート番号、および placeholder.jsp はサーバー上にないファイルです。

プラグインは、構成情報および実行時統計を収集し、この情報をブラウザーに戻します。詳しくは、[DebugConfigInfo](#) を参照してください。

以下に例を示します。

DB2 Alphablox と WebLogic Managed サーバーの併用

4 つ目のオプションは、DB2 Alphablox を WebLogic クラスタにインストールし、Managed Server が物理的に独立しており、ファイル共有を使用しないというオプションです。このオプションを使用すると、アプリケーションの作成、削除、変更、およびインポート以外のすべての DB2 Alphablox 管理機能を使用できます。

注: このオプションを使用するには、DB2 Alphablox がインストールされている個々の Managed Server の開始スクリプトに以下の行を追加しなければなりません。

```
-Dalphablox.admin.appserver.multiMachine=true
```

この行を開始スクリプトに追加した後で、WebLogic コンソールを使用して以下のアプリケーション関連タスクを実行してください。

1. 新しい DB2 Alphablox アプリケーションを作成して新しいファイルを追加した後、すべてのファイルを含むアプリケーション・ディレクトリーを Managed Server から Admin Server にコピーします。[注: DB2 Alphablox 管理ページを使用して新しいアプリケーションを作成する際には、どの Managed Server にこのアプリケーションが作成されたかを知らせるメッセージが表示されます。]
2. WebLogic コンソールを使用して、このアプリケーションを作成した Managed Server と同じように、このアプリケーションをターゲットに登録します。
3. アプリケーションをテストし、アプリケーションが実動できるようになるまで必要に応じてファイルを追加します。

注: WebLogic クラスタリング環境での DB2 Alphablox の使用に関する制約は、以下のとおりです。

- フェイルオーバーはサポートされていません。

DB2 Alphablox は、ロード・バランシング・ソフトウェアのセッション類縁性 (またはスティッキー・セッション) 設定のみサポートしています。

WebLogic 垂直クラスタでの DB2 Alphablox の使用

垂直クラスタを使用すると、WebLogic アプリケーション・サーバーの複数のインスタンスを 1 つのマシン上で実行できます。DB2 Alphablox は、1 つのドメイン中の WebLogic 垂直クラスタの使用をサポートしています。WebLogic 垂直クラスタと DB2 Alphablox を併用する場合は、BEA WebLogic および DB2 Alphablox に関する以下のインストール前ステップとインストール・ステップを実行してください。

WebLogic の構成

1. WebLogic の「ドメイン構成ウィザード (Domain Configuration Wizard)」および WebLogic の資料を使用して、ドメインをセットアップします。
2. このプロセス中に、「Admin Server と Clustered Managed Server (Admin Server with Clustered Managed Servers)」オプションを選択します。固有の名前

(Server1、Server2 など) を選択し、マシンごとに別個の listen ポートと SSL ポートを使用していることを確認して、個々の Managed Server をサーバーのリストに追加します。

注: すべてのサーバーは同じ物理マシン上にあるので、IP アドレスは同じです。

3. 「ドメイン構成ウィザード (Domain Configuration Wizard)」の残りの部分を完了させます。
4. 「スタート」メニューから WebLogic Admin Server を開始します。
5. Web ブラウザーで以下のアドレスを指して、WebLogic コンソールに進みます。

`http://<server>:7001/console` (<server> はサーバー・インスタンスの IP アドレスまたは名前)

6. 通常どおりセキュリティをセットアップします。(DB2 Alphablox セキュリティの構成と使用について詳しくは、「管理者用ガイド」の『セキュリティと認証』の章を参照してください。)
7. 垂直クラスター中の Managed Server ごとに Managed Server バッチ・ファイル (Windows の場合は `startManagedWeblogic.cmd`、Linux および UNIX の場合は `startManagedWeblogic.sh`) のコピーを作成し、サーバーごとにファイル・コピーの名前を変更します。例えば、`StartManaged1.cmd`、`StartManaged2.cmd` のようにします。このファイルは、ウィザードを使用して作成したばかりのドメインのディレクトリーにあります。以下に例を示します。

```
d:%bea_v702%user_projects%vertDomain
```

8. 新しくコピーした Managed Server ごとに、`SERVER_NAME` および `ADMIN_URL` の値を追加します。以下に例を示します。

```
SERVER_NAME=server1, ADMIN_URL=http://i18neng2kd:7001
```

DB2 Alphablox のインストール・ステップ

上記の WebLogic 構成ステップを実行し終えたら、次に以下のステップに従って DB2 Alphablox をインストールできます。

1. DB2 Alphablox を WebLogic Admin Server にインストールします。プロンプトが出たら、固有のサーバー・インスタンス名 (`AdminAnalysisServer` など) をそのサーバーに付けて、固有の名を付けたディレクトリー (`AdminAlphablox` など) に DB2 Alphablox をインストールします。
2. DB2 Alphablox のインストール中に WebLogic 構成ダイアログが表示されたら、以下のようになります。
 - a. 適切な開始ドメインおよび開始ファイルを選択します。

WebLogic: 以下のディレクトリーの下にあるドメイン固有の `startWebLogic.cmd` (Windows) または `startWebLogic.sh` (Linux および UNIX) ファイルと、ドメイン固有の `installSvc.cmd` ファイルを選択します。

```
../user_projects/domain/<domainName>
```

- b. データベース・リポジトリー・オプションを選択し、独立型として構成します。
3. Admin Server 上に DB2 Alphablox をインストールした後で、1 つ目の Managed Server に DB2 Alphablox をインストールします。

- a. 固有のインスタンス名 (Server1 など) およびディレクトリーの場所 (d:¥vertical¥server1 など) を指定します。
- b. WebLogic 構成ダイアログ中で適切なドメインを選択します。
- c. 以前に作成した 1 つ目の Managed Server 開始ファイル (StartManaged1.cmd など) を WebLogic 開始ファイルとして指します。
- d. このサーバーを先導ノードとしてセットアップします。

注: 技術的にはこのサーバーは先導ノードである場合もない場合もありますが、データベース・リポジトリーのインストール時には、通常ノードの作成前に先導ノードを指定する必要があります。

4. 2 つ目の Managed Server をインストールして、server2 などの名前を付けます。
 - a. 固有のインスタンス名 (Server2AnalysisServer など) およびディレクトリーの場所 (d:¥vertical¥server2 など) を指定します。
 - b. WebLogic 構成ウィンドウで適切なドメインを選択します。
 - c. 以前に作成した 2 つ目の Managed Server 開始ファイル (StartManaged2.cmd など) を WebLogic 開始ファイルにする必要があります。
 - d. このサーバーを通常ノードとしてセットアップします。

注: 実際には、どの Managed Server を最初に始動するかに応じて、このサーバーは通常ノードであったりなかったりします。

5. 以前に作成したドメイン・ディレクトリーの下で、config.xml に変更を加え、サーバー (この場合は server1 および server2) を指すように個々のターゲットを設定します。この時点では、個々の DB2 Alphablox アプリケーションは、最後にインストールしたサーバー (この例では server2) を指しています。この設定を変更し、両方のサーバーを含めて、コマンドで名前を区切ります (server1,server2)。

注: 万一必要になる場合に備えて、変更を加える前に、オリジナルの config.xml ファイルのコピーを作成してください。

6. 最初に WebLogic Admin Server を開始します。Managed Server を開始する前に、このサーバーを実行している必要があります。
7. 次に、server1 を開始してから、server2 を開始します。最初に開始する Managed Server は、先導ノードです。DB2 Alphablox コンソール上に、「DB2 Alphablox <instance name> が開始済み」が表示されます。

注: 「変更する共通バッチ・ファイルがありません:callWebLogic (Common batch file to alter does not exist::callWebLogic)」というエラーが表示された場合は、WebLogic サーバーを開始する前に、aassetup.bat (または、Linux および UNIX の場合は aassetup.sh) への呼び出しを追加する必要があります。

8. この時点で、Server1 または Server2 のいずれかに接続する必要があります。これらの両方とも同じリポジトリーを共有しています。

注: いずれかのタイプのロード・バランシング・スキームが必要な場合は、別個にセットアップする必要があります。

第 4 章 インストール後のタスク

この章では、Linux、UNIX、および Windows システム上で DB2 Alphablox インストーラーを実行した後に必要なタスクについて説明します。

- 35 ページの『WebSphere Application Server および WebSphere Portal Server でのインストール後のステップ』
- 37 ページの『WebLogic でのインストール後のステップ』
- 38 ページの『一般的なインストール後のタスク』
- 48 ページの『インストール後の注意事項』
- 48 ページの『Windows からのアンインストール』
- 49 ページの『Linux および UNIX システムからのアンインストール』
- 49 ページの『サンプル・データのロード』

WebSphere Application Server および WebSphere Portal Server でのインストール後のステップ

WebSphere Application Server または WebSphere Portal Server に DB2 Alphablox を新規にインストールする場合は、以下の『新規インストール』のインストール後ステップを実行してください。既存のインストールをアップグレードする場合は、下記の 37 ページの『アップグレード』のステップに従ってください。

新規インストール

WebSphere Application Server、WebSphere Application Server - Express、または WebSphere Portal Server に DB2 Alphablox を新規にインストールする場合は、以下のステップを実行してください。

1. WebSphere サーバーを開始します。
2. 以下のステップを実行して、必要な WebSphere セキュリティー設定を使用可能にします。
 - a. WebSphere 管理コンソールを開きます。[注: ユーザー名とパスワードを求められる場合は、すでにグローバル・セキュリティ (Global Security) がセットアップされているので、これらのセキュリティを使用可能にするステップをスキップできます。]
 - b. 左側のフレームで、「**セキュリティ (Security)**」 > 「**ユーザー・レジストリー (User Registries)**」を選択します。

「ローカル OS (Local OS)」オプションを使用する場合は、以下のようになります。

- 1) 「サーバーのユーザー ID (Server User ID)」および「サーバーのユーザー・パスワード (Server User Password)」の値を追加します。

ご使用のシステムでユーザーが事前定義した値を入力するか、ご使用のマシンで新しいユーザー (wsadmin など) を作成します。この値は、WebSphere 管理コンソールの使用やサーバーの停止を含む、WebSphere サーバーの管理に使用されます。

- 2) 「**セキュリティ (Security)**」 > 「**グローバル・セキュリティ (Global Security)**」に進み、「使用可能 (Enabled)」にチェック・マークを付け、「Java 2 セキュリティの施行 (Enforce Java 2 Security)」のチェック・マークを外し (WebSphere Express には適用されません)、「アクティブ・ユーザー・レジストリー (Active User Registry)」を「ローカル OS (Local OS)」に設定します。

「LDAP」オプションを使用する場合は、以下のようになります。

- 1) LDAP 接続情報の値を追加します。
- 2) 「**セキュリティ (Security)**」 > 「**グローバル・セキュリティ (Global Security)**」に進み、「使用可能 (Enabled)」にチェック・マークを付け、「Java 2 セキュリティの施行 (Enforce Java 2 Security)」のチェック・マークを外し、「アクティブ・ユーザー・レジストリー (Active User Registry)」を「LDAP」に設定します。

注: WebSphere は、Active Authentication Mechanism SWAM (Simple WebSphere Authentication Mechanism) および LTPA (Lightweight Third Party Authentication) の両方をサポートしています。LTPA をサポートするには、WebSphere Network Deployment Manager を使用し、以下のステップを実行して、WebSphere クラスターをセットアップしてください。

- 1) 「**セキュリティ (Security)**」 > 「**認証メカニズム (Authentication Mechanisms)**」 > 「**LTPA**」に進みます。
- 2) パスワード・フィールドに該当する値を入力します。

注: クラスター環境のみ: WebSphere 管理コンソールの代わりに WebSphere Network Deployment Manager の管理コンソールを使用します。

3. 以下のように、WebSphere サーバーの開始や停止に関するスクリプトを変更します。

Windows

- a. 「スタート」 > 「すべてのプログラム」 > 「IBM WebSphere」 > 「Application Server」を開き、「サーバーの停止」オプションを右クリックしてから、「プロパティ」を選択します。
- b. 表示された「プロパティ」ウィンドウで、「ターゲット」フィールドを見つけ、ストリングの末尾に「-username <username> -password <password>」を追加します。以下に例を示します。

```
"C:¥Program Files¥WebSphere¥AppServer¥bin¥stopServer.bat" server1  
-username wsadmin -password wspassword
```

- c. 「OK」ボタンを押して、変更を適用します。

Linux および UNIX

- a. WebSphere サーバーを停止するには、必要な「“-username <username> -password <password>”」 スtring をコマンド・パラメーターとして追加して、stopServer.sh コマンドを実行する必要があります。以下に例を示します。

```
stopServer.sh server1 -username wsadmin -password wspassword
```

インストール中に 2 つの DB2 Alphablox EAR ファイル (AlphabloxPlatform.ear と ApplicationStudio.ear) が WebSphere サーバーに自動的に配置されます。

注: WebSphere Portal Server ユーザー: ポータル・テーマ・ユーティリティーは DB2 Alphablox 管理ページからアクセス可能ですが、ポートレットとしてカスタム・ポータル・アプリケーションの中で使用することもできます。ポータル・テーマ・ユーティリティー・ポートレットは、DB2 Alphablox ルート・ディレクトリーの installableApps ディレクトリーに入っている、AlphabloxAdminPortlets.war ファイルの中にあります。このポートレットを、カスタム・ポータル・アプリケーションで使用可能です。

アップグレード

既存の DB2 Alphablox インストール済み環境をアップグレードする場合、追加ステップは不要です。インストール中に、AlphabloxPlatform および ApplicationStudio という 2 つの必要な DB2 Alphablox エンタープライズ・アプリケーションが WebSphere サーバーにインストールされます。

クラスター・サーバー

DB2 Alphablox をクラスター・サーバー環境にインストールした場合、DB2 Alphablox を使用する前に AlphabloxPlatform および ApplicationStudio という 2 つの必要な DB2 Alphablox アプリケーションを手動でクラスター・サーバーに配置しなければなりません。これらのステップについては、25 ページの『WebSphere クラスター環境での DB2 Alphablox の使用』で説明します。

WebLogic でのインストール後のステップ

DB2 Alphablox と BEA WebLogic アプリケーション・サーバーを併用して Oracle に接続する場合は、正しい Oracle JDBC ドライバーを WebLogic にインストールしているか確認してください。WebLogic 8.1 には Oracle JDBC ドライバー (920) が付属しており、以下のディレクトリーにインストールされています。

```
<bea_dir>%weblogic81%server%lib
```

注: Netscape、Apache、または Microsoft IIS Web サーバーから BEA WebLogic サーバーへの要求をプロキシすることに関する情報は、<http://edocs.bea.com> で入手できる BEA の資料を参照し、キーワード「plug-in」を使用して検索してください。特定の Web サーバーについては、『Proxy by path』の下の指示に従ってください。プロキシされる必要のあるすべてのパスのサンプル、および iisproxy.ini の例については、以下のファイルを参照してください。

```
<db2alphablox_dir>/conf/iisproxy.ini-alphablox (このファイルは WebLogic のインストール時のみ生成されます)。
```

注: WebLogic の背後で実行される Web サーバーとして Microsoft IIS を実行する予定で、デフォルトの 7001 以外の要求ポートを使用することになっている場合は、以下のファイル中にある WebLogicPort パラメーター値を編集する必要があります。

```
<db2alphablox_dir>/conf/iisproxy.ini-alphablox
```

一般的なインストール後のタスク

DB2 Alphablox をインストールした後で、以下のタスクを実行してください。

DB2 Alphablox インフォメーション・センターのインストール

デフォルトでは、DB2 Alphablox インストール・システムはリンクとショートカットを使って、IBM によってホストされる DB2 Alphablox インフォメーション・センターおよび Javadoc 資料にリモート・アクセスします。ローカル・システムまたはイントラネット・サーバーにインフォメーション・センターをインストールする必要がある場合、DB2 Alphablox インフォメーション・センターを、既存の DB2 Alphablox のインストール済み環境にインストールするか、スタンドアロンのインフォメーション・センターとしてインストールするように選択できます。ローカルの DB2 Alphablox のインストール済み環境に対してインフォメーション・センター・インストーラーを実行すると、すべてのリンクとショートカットは、そのローカル・インフォメーション・センターを参照するようになります。

DB2 Alphablox インフォメーション・センターを、既存の DB2 Alphablox のインストール済み環境にインストールするか、スタンドアロンのインフォメーション・センターとしてインストールするには、次のようにします。

1. DB2 Alphablox の資料 CD に収められているインストーラーを実行します。
2. 「ようこそ」ウィンドウで「次へ」をクリックします。
3. 希望するインストールのタイプを選択します。
 - 「既存の Alphablox インストール下にインストールします」: DB2 Alphablox のインストール・システムの一部としてインフォメーション・センターをインストールしたい場合、このオプションを選択します。
 - 「スタンドアロンのインフォメーション・センターとしてインストールします」: マシン上に DB2 がインストールされていない場合、このオプションを選択します。
4. 「次へ」をクリックします。
5. インフォメーション・センターをインストールするディレクトリーを選択します。
 - 既存の DB2 Alphablox のインストール済み環境にインストールする場合、DB2 Alphablox のインストール・ディレクトリー (たとえば、`C:\alphablox\analytics`) を選択します。
 - スタンドアロンのインフォメーション・センターをインストールする場合、デフォルト・ディレクトリーを受け入れるか、または「参照」ボタンを使って別のディレクトリーにインストールします。
6. 「次へ」をクリックして、listen するポートを選択します。デフォルトの「ポート」の値は 52000 です。

7. 「次へ」をクリックし、インストールする IBM DB2 インフォメーション・センターの情報単位を選択します。デフォルトでは、使用可能なすべての情報単位が選択されます。
8. 「次へ」をクリックして、インストールのサマリー画面を確認します。
9. 「次へ」をクリックすると、インストールが開始します。
10. インストールが完了したら、「完了」をクリックします。

既存の DB2 Alphablox のインストール済み環境にインフォメーション・センターをインストールした場合、IBM DB2 Alphablox のメニューの「資料」メニューを使ってインフォメーション・センターのリンクを開始してアクセスすることができます。スタンドアロンのインストールの場合は、IBM DB2 Alphablox の「オンライン文書 (Online Documentation)」メニューの下のインフォメーション・センターを開始してアクセスすることができます。

オリジナルの構成ファイルの保管

重要: インストール中に、インストーラーは server.xml および web.xml ファイルのバックアップをオリジナルのファイルと同じディレクトリーに作成し、拡張子 .AlphabloxBackup を付加します (server.xml.Alphabloxbackup および web.xml.AlphabloxBackup)。これらのファイルに変更を加えた場合は、変更内容を手動でマージする必要があります。インストーラーは、古いバックアップ・コピーを上書きし、これらのファイルのバックアップ・コピーを 1 つ保守します。

Microsoft IIS 固有のインストール後のステップ

Microsoft IIS がインストールされている IBM WebSphere アプリケーション・サーバーに DB2 Alphablox をインストールした場合、Microsoft IIS との構成に関するアプリケーション・サーバーの資料を参照してください。DB2 Alphablox を Apache Tomcat にインストールしており、IIS を Web サーバーとして使用する場合は、マシンをリブートして以下のステップを実行する必要があります。(Microsoft IIS を Web サーバーとして使用しない場合は、このセクションをスキップできます。)

Apache Tomcat インストール済み環境で IIS 6 を DB2 Alphablox とともに使用する

Web サーバーとして Microsoft IIS 6 をインストールしている場合は、インストーラーによりインストール・ログ中に一連の警告メッセージが記入されます。以下の方法で、これらのメッセージを解決できます。

以下のメッセージが記入されたとします。

```
Microsoft IIS v6 does not allow programs to register filter DLLs.  
In order to run DB2 Alphablox with IIS v6 you must manually register  
scripts_dir/isapi_redirect.dll. See install documentation for more  
information.
```

この問題は、以下のように解決できます。

1. Microsoft の Internet Information Services Manager を開きます (普通は「管理ツール」フォルダー内にあります)。

2. DB2 Alphablox と併用する Web サイトを選択し、右クリックしてプロパティを選択します。
3. 「ISAPI フィルター (ISAPI Filters)」タブを選択します。
4. 「追加 (Add)」ボタンを押して、フィルター名 (名前は重要ではありません) および実行可能ファイル (<inetpub_dir>%scripts%isapi_redirect.dll にあります) を入力します。

以下の警告メッセージが記入されたとします。

```
Please make sure that you have an IIS virtual directory named 'Scripts'
that points to the <scripts_dir> directory. This virtual directory must be
set to have execute rights.
```

このメッセージは、Scripts 仮想ディレクトリーに実行可能権限が必要な場合に表示されます。以下のステップを行うと解決できます。

1. Microsoft の Internet Information Services Manager を開きます (普通は「管理ツール」フォルダー内にあります)。
2. DB2 Alphablox と併用する Web サイトを選択し、右クリックして新しい仮想ディレクトリーを選択します。
3. 「仮想ディレクトリーの別名 (virtual directory alias page)」ページで、「Scripts」と入力します。
4. 「Web サイト内容ディレクトリー (web site content directory page)」ページで、<scripts_dir> (普通は <inetpub_dir>%scripts) と入力します。
5. 「仮想ディレクトリー・アクセス権限 (virtual directory access permissions)」ページで、「読み取り (read)」、「スクリプトの実行 (run scripts)」、「実行 (execute)」を選択します。

以下の警告メッセージが記入されたとします。

```
By default Microsoft IIS v6 prohibits all unknown ISAPI extensions.
In order for DB2 Alphablox to work correctly with IIS, this setting
must be changed to 'Allow'. See install documentation for more information.
```

このメッセージは、デフォルトで ISAPI リダイレクト DLL (isapi_redirect.dll) を実行する権限がない場合に表示されます。以下のステップを行うと、IIS に必要な権限が付与されます。

1. Microsoft の Internet Information Services Manager を開きます (普通は「管理ツール」フォルダー内にあります)。
2. Web サービス拡張項目を選択します。
3. 右側のペインに「すべての不明な ISAPI 拡張 (All Unknown ISAPI Extensions)」の項目があり、デフォルトでこの項目を「禁止 (Prohibited)」ではなく「許可 (Allow)」に設定する必要があります。

DB2 Alphablox のための IIS の一般構成

使用する IIS のバージョンにかかわらず、以下のステップを実行してください。

1. (IIS ユーザー・インターフェースからではなく)「サービス」ダイアログを使用して、IIS をシャットダウンします。「サービス」コントロール・パネル資料から (Windows 2000 (Windows 2003) では「コントロール パネル」、「管理ツール

ル」、「サービス」、Windows では「コントロール パネル」、「サービス」)、「IIS 管理サービス (IIS Admin Service)」を選択して、「停止」ボタンをクリックします。

2. 以下のバッチ・ファイルを実行して、DB2 Alphablox に必要な仮想ディレクトリーを作成します。

```
<db2alphablox_dir>%bin%IISVGen.bat
```

<db2alphablox_dir> は DB2 Alphablox のインストール先のディレクトリーを表します。

Apache Tomcat のインストール済み環境の IIS を使用して NTLM (または他の) セキュリティーを構成する

IIS を使用して NTLM または独自のセキュリティーのサポートを追加するには、以下のようにします。

1. DB2 Alphablox がシャットダウンされていることを確認します。
2. <tomcat_dir>%conf の下のファイル server.xml を編集します。

以下の 2 つの XML エlement (基本認証インターセプター) の前に <!-- を追加し、後に --> を追加して、これらのElementをコメント化します。

```
<RequestInterceptor
  className=
    "com.alphablox.server.adapter.tomcat.SimpleAccessInterceptor"
  debug="1" />

<RequestInterceptor
  className=
    "com.alphablox.server.adapter.tomcat.SimpleRealm"
  debug="1" />
```

さらに、同じ場所に以下のElementを追加します。

```
<RequestInterceptor className =
  "com.alphablox.server.adapter.tomcat.NTLMRealm" debug="1" />
```

NTLM のサポートのための、IIS、WebLogic、および DB2 Alphablox の構成

NTLM 認証をサポートするように Microsoft IIS、BEA WebLogic、および DB2 Alphablox の組み合わせを構成するには、以下のステップを実行します。

1. Windows レジストリーに以下の項目がないことを確認します。
HKEY_LOCAL_MACHINE/System/CurrentControlSet/
Servers/W3SVC/Parameters/Filter DLL

この項目を見つけた場合は、レジストリー・エディター (regedit) を使用して削除します。このレジストリー項目は、Apache Tomcat および IIS を使用する DB2 Alphablox インプリメンテーションをインストールする場合に、DB2 Alphablox インストーラーによって設定されます。

2. ファイル <alphablox>/conf/iisproxy.ini-alphablox を
<bea_home>/weblogic81/server/bin にコピーします。

3. iisproxy.ini-alphablox ファイルは DB2 Alphablox のテンプレート・ファイルで、DB2 Alphablox がアプリケーションを作成したり削除したりするたびに更新されます。ここでは、ファイルの末尾から「-alphablox」を除去して、名前を iisproxy.ini に変更します。
4. 単一サーバーの場合、iisproxy.ini ファイル中の以下のパラメーターを使用します。

```
WebLogicHost=localhost
```

```
WebLogicPort=7001
```

クラスターの場合、以下のパラメーターを使用します。

```
WebLogicCluster=localhost:7001,localhost:7002, othermachine:7001
```

5. IIS 管理を開始します。
6. 新しい Web サイトを作成します (または既存の Web サイトを編集します)。
7. IIS 管理を使用して、<bea_home>/weblogic81/server/bin の下にあるフィルター iisforward.dll を Web サイトに追加します。
8. .wlforward が iisproxy.dll を使用するようマップします。
 - a. Web サイトを選択します。
 - b. 右クリックして、「プロパティ」メニュー項目を選択します。
 - c. 「ホーム・ディレクトリー」タブを選択します。
 - d. 「構成」ボタンを選択します。
 - e. 「アプリケーション・マッピング」タブを選択します。
 - f. 「追加」ボタンをクリックします。
 - g. 実行可能ファイルが <weblogic_dir>/weblogic81/server/bin/iisproxy.dll になるように設定し、拡張子を .wlforward に設定します。.wlforward が iisproxy にマップされます。
9. Web サイトのセキュリティーを使用可能にします。
10. IIS を再始動します。
11. WebLogic コンソールを使用してセキュリティーの制約とログイン構成を除去することにより、すべてのアプリケーションに対するすべてのセキュリティーを除去します。代わりに web.xml を編集し、security-constraints エレメントと login-config エレメントおよびセキュリティー役割の定義を除去することもできます。
12. IIS と Web サイト、および WebLogic を開始します。
13. NTLMUserManager を使用するよう DB2 Alphablox をセットアップします。DB2 Alphablox を正常に開始し終わったら、以下のようになります。
 - a. Telnet コンソール (HTML ではない) に接続します。
 - b. 以下のコマンドを実行します。

```
ExtUserManager umclassname  
com.alphablox.personalization.ntlm.NTLMUserManager
```

```
ExtUserManager userclassname  
com.alphablox.personalization.ntlm.NTLMUser
```


- c. 保管します。
- d. ユーザーを停止します。
- e. ユーザーを開始します。

14. IIS を使用して、DB2 Alphablox 管理ページに進みます。

以後このセットアップにより、IIS でセキュリティーを管理でき、DB2 Alphablox は IIS からユーザー名を入手できます。

DB2 Alphablox の開始

DB2 Alphablox のインストールを始動して検証するには、以下のステップを実行してください。

1. アプリケーション・サーバー・クラスターの背後で DB2 Alphablox を実行する場合は、通常ノードの開始を試行する前に、クラスターの先導ノードを開始しなければなりません。
2. IIS の背後にインストールする場合は、必ず DB2 Alphablox を開始してから IIS を開始します。IIS をシャットダウンするには、Microsoft Management Console を開始してから、デフォルトの Web サイトを停止します (例えば、「停止 (Stop)」ボタンをクリックします)。

重要: DB2 Alphablox を初めて開始するのは、必ず IIS を実行する前で行わなければなりません。DB2 Alphablox を初めて開始する際に、2、3 のファイルが作成され、このファイルは IIS の開始時に IIS によって検索されます。DB2 Alphablox を初めて実行した後で、Windows の「サービス」コントロール・パネルで IISAdmin を開始してから、(必要に応じて) Internet Information Services のマネージャーからページ・サービス提供を始動します。

DB2 Alphablox を初めて実行する前に IIS をすでに実行しており、DB2 Alphablox アプリケーション・ページが適切にロードされない場合は、単に前述のように IIS を停止してから再始動してください。

3. Apache Tomcat 構成をインストールしており、Web サーバーとして Apache または iPlanet を使用している場合は、DB2 Alphablox を初めて開始する前に Apache または iPlanet を停止していることを確認してください。「**DB2 Alphablox が開始されました (DB2 Alphablox started)**」というメッセージが表示されるまで待つから、Apache または iPlanet を開始します。
4. DB2 Alphablox を開始します。
 - WebSphere または WebLogic の下で実行する場合は、DB2 Alphablox のインストール先のアプリケーション・サーバーのインスタンスを開始します。
 - Apache Tomcat 構成を実行する場合は、DB2 Alphablox を Windows の「スタート」メニューから開始するか、または Linux および UNIX システムの場合は StartAlphablox.sh スクリプトを実行して開始することができます。
5. IIS の背後で実行する場合は、「**DB2 Alphablox が開始されました (DB2 Alphablox started)**」というメッセージがコンソールに表示されるまで待ちます。DB2 Alphablox の始動が完了したら、IIS Web サーバーを開始します。「Microsoft 管理コンソール (Microsoft Management Console)」を開始してか

ら、「デフォルト Web サイト (Default Web Site)」を開始して (例えば「スタート」ボタンをクリックして)、IIS を開始できます。

6. Apache Tomcat 構成をインストールしており、Web サーバーとして Apache を使用している場合は、Apache を開始します。
7. DB2 Alphablox を実行しているか検証します。DB2 Alphablox のホーム・ページにログインできる場合は、サーバーは実行中です。

グラフィックス・カードのないサーバーを使用するか、またはリモート Telnet を使用した、Linux または UNIX 上での DB2 Alphablox の実行

グラフィック・カードを備えていない Linux または UNIX サーバー (ヘッドレス・サーバーと呼ばれる) で DB2 Alphablox を実行する場合、またはグラフィック・カードを備えていないサーバーに Telnet でログインする場合は、X11 ライブラリーをインストールする必要があります。X11 ライブラリーがインストールされていない場合、DB2 Alphablox は正しく始動せず、Blox コンポーネントで表示するためのチャートを生成できません。

さらに、ご使用の DB2 Alphablox サーバーがヘッドレスである場合、以下の JVM 引数を使用してアプリケーション・サーバーの Java VM も開始する必要があります。

```
-Djava.awt.headless=true
```

インストール・ログとサーバー・ログの確認

DB2 Alphablox インストール・プロセスにより、ログ・ファイルの集合が作成されます。このプロセスが順調に進んだことを確認するには、以下のステップを使用してください。

1. エラーがあるかインストール・ログ・ファイルを確認します。Windows ショートカット (「スタート」>「すべてのプログラム」>「DB2 Alphablox」>「InstanceName」>「DB2 Alphablox インストール・ログ (DB2 Alphablox Installation Log)」) からファイルを表示するか、または Web ブラウザー・ウィンドウで以下のファイルを開いて表示できます。

```
<db2alphablox_dir>/alphablox_install_log.html
```

<db2alphablox_dir> は DB2 Alphablox のインストール先のルート・ディレクトリーを表します。

2. インストール・ログ・ファイル中に、DB2 OLAP Server または Essbase の DLL ファイルの競合に関するエラーまたは警告がある場合は、DB2 Alphablox お客様サポートに問い合わせます。
3. インストール時に 80 以外のポート番号を指定した場合は、インストール・ログ・ファイルに警告メッセージが表示されます。このメッセージは、デフォルト以外のポート番号が選択されたことを記録するために使用されます。
4. サーバー・ログ・ファイル (デフォルト名は server.log) を確認します。このファイルには、DB2 Alphablox インストール・イベントのログが入れられます。このログ・ファイルは以下のディレクトリーにあります。

```
<db2alphablox_dir>/repository/servers/<instance_name>/logs
```

注: インストール中に、DB2 Alphablox 上で update コンソール・コマンドが自動的に実行されます。update コマンドは、システム保守タスクを実行します。特定の理由でこのコマンドが失敗すると、失敗の理由を説明したエラー・メッセージがサーバー・ログ・ファイル中に記録されます。エラー・メッセージがない場合は、このコマンドが正常に実行されたことを示します。update コマンドが失敗したことが分かった場合は、問題を訂正し、コンソール・ウィンドウから以下のコマンドを実行して再実行します。

```
update
```

MIME 設定

以下のように、ご使用の Web サーバー上の MIME 設定が XML ファイル用に構成されていない必要があります。

```
xml=text/xml
```

セキュリティと認証の構成

接続構成の手順に関するステップは、以下のとおりです。

1. セキュリティに関する特別な考慮事項については、「管理者用ガイド」を参照してください。
2. Sybase データベース・サーバーに接続する場合は、接続する前に該当する SQL スクリプトを実行しなければなりません。詳細は、「管理者用ガイド」を参照してください。
3. DB2 Alphablox の管理ページを使用して、エンド・ユーザーおよび開発者の該当するアクセス権を確立します。詳しくは、「管理者用ガイド」を参照してください。
4. DB2 Alphablox の管理ページを使用して、ユーザー、グループ、役割、データ・ソース、およびアプリケーションを定義します。詳しくは、「管理者用ガイド」を参照してください。

異なるスキーマを使用したデータベースに基づく DB2 Alphablox Repository の実行

要件に応じて、1 人のユーザーにデータベースに基づく (ファイルに基づいてではなく) DB2 Alphablox Repository 用の表を作成して、異なるユーザーにその DB2 Alphablox Repository を使用しなければならない場合があります。データベースに基づく DB2 Alphablox Repository を使用した DB2 Alphablox のインストールの際には、DB2 Alphablox Repository 表の所有者のユーザー名とパスワードが用意されている必要があります。DB2 Alphablox のインストール後、リポジトリ変換ユーティリティ (詳しくは、*管理者用ガイド* を参照) を実行して、データベースに基づく DB2 Alphablox Repository 用のデータベース・スキーマとユーザーを変更することができます。リポジトリ変換ユーティリティは、DB2 Alphablox インストール済み環境の `db2alphablox_dir/tools/convert` ディレクトリにあります。

DB2 Alphablox Repository が異なるスキーマおよびユーザーで使用されるように変換するには、次のようにします。

1. DB2 Alphablox を開始して、インストール・プロセスが成功していることを確認します。

2. DB2 Alphablox を停止します。
3. リポジトリ変換ユーティリティを開始して、「異なるリポジトリを使用するために DB2 Alphablox を変換する (Change DB2 Alphablox to use a different repository)」オプションを選択します。
4. 該当するプロンプトに対して、使用するスキーマとユーザーを入力します。
5. DB2 Alphablox を開始します。
6. Web ブラウザーで DB2 Alphablox 管理ページを開いて、Repository Manager のユーザーおよびスキーマの設定が正しいことを確認してください。

これで、DB2 Alphablox Repository は指定したスキーマとユーザーを使用できるようになりました。

複数のロケールをサポートするように DB2 Alphablox Repository をマイグレーションする

以前のバージョンの DB2 Alphablox は、サーバーのデフォルト・ロケールを使用してファイル・ベースの DB2 Alphablox Repository インプリメンテーションを作成していました。DB2 Alphablox 8.4 から、複数ロケールをサポートするようにファイル・ベースの DB2 Alphablox Repository をマイグレーションできるようになりました。DB2 Alphablox のインストール後、NativeConverter ユーティリティを実行して、ご使用のファイル・ベースの DB2 Alphablox Repository に複数ロケールのサポートを追加できます。

複数のロケールをサポートするように DB2 Alphablox Repository をマイグレーションするには、次のようにします。

1. DB2 Alphabloxのインストール済み環境の `db2alphablox_dir/analytcs/bin` ディレクトリで、NativeConverter ユーティリティ (Windowsの場合 `NativeConvert.bat`、Linux および UNIX の場合 `NativeConverter.sh`) を見つけます。
2. コマンド・コンソール・ウィンドウで、以下の構文を使用して NativeConverter ユーティリティを実行します。

```
NativeConverter.bat pathToRepository skipExistFile  
[-s sourceEncoding -t targetEncoding]
```

ここで、`pathToRepository` は DB2 Alphablox Repository への相対パスまたは絶対パスであり、`skipExistFile` はマイグレーションから除外するファイルのリスト・ファイルの位置です。

たとえば、Windowsシステムの DB2 Alphablox bin ディレクトリ (`db2alphablox_dir/bin`) でコマンド・コンソールをオープンする場合、以下のコマンドを入力して実行します。

```
NativeConverter.bat ../repository skipExistFile.txt  
[-s sourceEncoding -t targetEncoding]
```

これで、ご使用のファイル・ベースの DB2 Alphablox Repository は、複数ロケールの DB2 Alphablox 8.4 をサポートするようにマイグレーションされました。

クラスター・サーバー構成での PDF 印刷の構成

WebLogic または WebSphere のクラスターの背後で DB2 Alphablox を実行する場合は、クラスターのすべてのノードで共有される、PDF ファイルを保管するフォルダーを識別する必要があります。PDF 印刷機能をセットアップするには、以下のインストール後ステップを実行してください。

1. WebLogic または WebSphere クラスターをシャットダウンします。
2. WebLogic を使用する場合は、管理サーバー上で web.xml ファイルを編集する必要があります。WebSphere を使用する場合は、クラスター中のすべてのノード上で web.xml ファイルを編集する必要があります。web.xml ファイルは以下のディレクトリーにあります。

```
<db2alphablox_dir>%system%AlphabloxPlatform%AlphabloxServer%WEB-INF%
```

PdfTemporaryArea タグの値を変更し、PDF 一時ファイルの保管先にするマウント済みのドライブを指します。

```
<context-param>
  <param-name>PdfTemporaryArea</param-name>
  <param-value>@PDF_TEMPORARY_AREA@</param-value>
</context-param>
```

@PDF_TEMPORARY_AREA@ を、マウント済みの共有ドライブの名前に変更します。以下に例を示します (Windows の場合)。

```
<context-param>
  <param-name>PdfTemporaryArea</param-name>
  <param-value>P:%PDFTempDir</param-value>
</context-param>
```

P:%PDFTempDir はシステム上の共有フォルダーです。

3. 個々の WebLogic Managed Server で、ドライブのマップ/マウントを行い、管理サーバーの web.xml ファイル中の PDF 一時ファイルが指定された論理区画を指すようにします。前述の Windows の例では、Managed Server で P:% ネットワーク・ドライブをマップすると、%PDFTempDir ディレクトリーのあるシステムおよび論理区画を指します。
4. クラスターを再始動すると、新しいプロパティを認識するようになります。

インストールの要約

DB2 Alphablox の「リリース・ノート」を調べてください。「リリース・ノート」にアクセスするには、DB2 Alphablox オンライン文書を開き、目次中の「リリース・ノート」のリンクをクリックするか、または Windows の「スタート」メニュー上のショートカットを使用します。「リリース・ノート」には、オンライン文書中には全く記載されていない情報や、現行バージョンで起こる可能性のある問題と利用できる対処法が説明されています。

インストール後の注意事項

DB2 Alphablox を正常にインストールし終えたら、以下の点に注意してください。

- デフォルトのユーザー名は **admin** か、指定したユーザー名です。
- デフォルトのパスワードは **password** か、指定したパスワードです。

可能な限りお早めにパスワードを変更してください。

- デフォルトのポートは以下のとおりです。

要求ポート: 80 (またはご使用のアプリケーションか Web サーバーの設定値)

Telnet コンソール・ポート: 23

- DB2 Alphablox を開始します。
 - [WebSphere/WebLogic] アプリケーション・サーバーを開始して、DB2 Alphablox を始動します。WebSphere を Windows 上で実行する場合は、「スタート」>「すべてのプログラム」>「IBM WebSphere」>「サーバーの開始 (Start the Server)」を選択できます。
 - [Tomcat] Windows 上で、「スタート」>「すべてのプログラム」>「DB2 Alphablox」>「<InstanceName>」>「DB2 Alphablox の始動 (Startup DB2 Alphablox)」を選択します。
- DB2 Alphablox ホーム・ページにアクセスするには、ブラウザのウィンドウで以下の URL を入力します。

`http://<serverName>/AlphabloxAdmin/home/`

<serverName> は、DB2 Alphablox が稼働するサーバー名およびポート番号を表します。

- さらに援助が必要な場合は、DB2 Alphablox お客様サポートに問い合わせます。

Windows からのアンインストール

DB2 Alphablox をアンインストールするには、以下のステップを実行します。

1. DB2 Alphablox を実行している場合はシャットダウンします。
2. Windows の「スタート」、「設定」、「コントロール パネル」ショートカットから、Windows の「コントロール パネル」を開きます。
3. 「アプリケーションの追加と削除」のコントロール・パネル文書をダブルクリックします。
4. 「インストールと削除」タブの下で、DB2 Alphablox を選択して「追加と削除」ボタンをクリックします。
5. 「はい」ボタンを押して、DB2 Alphablox をアンインストールすることを確認します。
6. 「OK」ボタンをクリックして、「アプリケーションの追加と削除」のコントロール・パネル文書を閉じます。
7. Alphablox のインストール先にしていたドライブから <db2alphablox_dir> ディレクトリ (Alphablox のインストール先だったディレクトリ) を削除します。
8. WebSphere ユーザーの場合: AlphabloxPlatform および ApplicationStudio アプリケーションを WebSphere Application Server から除去してください。

注: アンインストール・プロセス時に DB2 Alphablox がサービスとして実行されていた場合は、コンピューターをリブートしないと、DB2 Alphablox サービスはサービス・リストから完全に除去されません。

Linux および UNIX システムからのアンインストール

Linux または UNIX システムで DB2 Alphablox をアンインストールするには、以下のステップを実行してください。

1. DB2 Alphablox のインストール先のディレクトリー中の全内容に対する権限があるユーザーとして、Linux または UNIX シェルを開きます。
2. Linux または UNIX のコマンド・ウィンドウで、DB2 Alphablox のインストール先の親ディレクトリーに移動します。
3. 保管するアプリケーションのバックアップを取ります。
4. 保存したいすべての内容を <db2alphablox_dir>/repository ディレクトリーに保管していた場合は、この repository ディレクトリーのバックアップを取ります。
5. 以下のコマンドを実行して、DB2 Alphablox をアンインストールします。

```
<db2alphablox_dir>/UninstallerData/Uninstall_IBM_DB2_Alphablox
```

6. 以下のコマンドを入力して、DB2 Alphablox のインストール・ディレクトリーを除去します。

```
rm -rf <directory_name>
```

このディレクトリーが大きすぎる場合は、最初に DB2 Alphablox ディレクトリーの下の個々のディレクトリーを削除する必要がある可能性があります。

重要: この操作により DB2 Alphablox のインストールが永続的に除去され、作成した DB2 Alphablox アプリケーションも除去される可能性があります。再度 DB2 Alphablox を使用するには、再インストールしなければなりません。

7. WebSphere ユーザーの場合: AlphabloxPlatform および ApplicationStudio アプリケーションを WebSphere Application Server から除去してください。

サンプル・データのロード

DB2 Alphablox には、Quality Chocolate Company (QCC) という名前の架空の会社に関するサンプル・データベースをロードするデータが付属しています。BloX Sampler は、DB2 Alphablox ホーム・ページの「アセンブリー」タブから利用でき、QCC データを使用します。マルチディメンションとリレーショナルの両方の、多種多様なデータベース・プラットフォームで使用できるバージョンの QCC データがあります。

QCC データは DB2 Alphablox CD-ROM から入手できます。ご使用のデータベースに QCC データをロードすることに関する指示については、以下のファイルを参照してください。

```
<CD-ROM_dir>/sampledata/readme.txt
```

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation, J46A/G4, 555 Bailey Avenue, San Jose, CA 95141-1003 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

AIX	Informix
Cloudscape	iSeries
Cube Views	POWER
DB2	Rational
DB2 OLAP Server	Red Brick
DB2 Universal Database	WebSphere
IBM	xSeries [®]
	z/OS

Alphablox および Blox は Alphablox Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Intel[®]、Pentium[®] は Intel Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT[®]、および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アップグレード

インストーラー中の選択 19

アプリケーション・サーバー

サポート済み 9

参照: WebSphere, WebLogic, Apache Tomcat

アンインストール

Linux 49

UNIX 49

Windows 48

インストール

インストール後のタスク 38

インストール後の注意事項 48

インストール前のタスク 12

サンプル・データ 49

タスク・チェックリスト 12

Linux, システム要件 6, 8

UNIX, システム要件 8

Windows, システム要件 9

インフォメーション・センター

インストール 38

[カ行]

クラスタリング

WebLogic Managed Server 環境セットアップ 32

WebLogic 環境セットアップ 28

WebSphere 環境セットアップ 25

グラフィックス・カード 7, 8

言語

サポート済み 2

[サ行]

サポート済みクライアント 3

サポート済み構成

統合開発環境 3

マルチディメンション・データベース 4

リレーショナル・データベース 5

Adobe Acrobat クライアント 3

DB2 Alphablox Repository 5

サポート済みマルチディメンション・データベース 4

サンプル・データ、ロード 49

システム要件

AIX 7

システム要件 (続き)

Linux 6

Solaris 8

Windows 9

使用されるディスク・スペース

AIX 7

Solaris 8

Windows 6, 9

資料

インストール 38

[タ行]

データベース

サポート済み 4

サンプル、ロード 49

統合開発環境のサポート済み構成 3

[ハ行]

ブラウザ

サポート済み HTML クライアント 3

ヘッドレス・サーバー

構成 44

[ヤ行]

ユーザー名およびパスワード、デフォルト 48

要件

アプリケーション・サーバー 9

統合開発環境 3

Adobe Acrobat クライアント 3

AIX のインストール先 7

Linux のインストール先 6

Solaris のインストール先 8

Windows のインストール先 9

[ラ行]

リポジトリ

サポート済み 5

リポジトリ、DB2 Alphablox

Windows インストールでのセットアップ 23

リレーショナル・データベース

サポート済み 5

ログ・ファイル

確認 44

A

- Adobe Acrobat クライアントのサポート済み構成 3
- AIX、IBM
 - システム要件 7
- Apache
 - Derby
 - 参照： DB2、 IBM
- Apache Web サーバー
 - インストール前のタスク 16
 - Apache Web サーバーの前に DB2 Alphablox を開始 43

B

- BEA WebLogic
 - 参照： WebLogic、 BEA

C

- Cloudscape、 IBM
 - サポート済みバージョン 5, 6

D

- DB2 Alphablox
 - クラスタリング
 - 参照： クラスタリング
 - システム要件 3, 6, 7, 8, 9
- DB2 Alphablox Repository
 - 異なるデータベース・スキーマを使用した 45
 - サポート済み 5
 - 複数ロケールのサポート 46
- DB2 Data Warehouse Edition
 - データベースの制限 1
- DB2 for iSeries、 IBM
 - サポート済みバージョン 5
- DB2 for z/OS、 IBM
 - サポート済みバージョン 5
- DB2 OLAP Server サポート済みバージョン 4
- DB2 Universal Database (UDB)、 IBM
 - サポート済みバージョン 5, 6
- DB2 データベース
 - サポート済みバージョン 5
- Derby、 Apache
 - サポート済みバージョン 5, 6

E

- Essbase、 Hyperion
 - サポート済みバージョン 4

H

- Hyperion Essbase のサポート済みバージョン 4

I

- IBM
 - AIX
 - 参照： AIX、 IBM
 - Cloudscape
 - 参照： DB2、 IBM
 - DB2 for iSeries
 - 参照： DB2、 IBM
 - DB2 for z/OS
 - 参照： DB2、 IBM
 - DB2 Universal Database (UDB)
 - 参照： DB2、 IBM
 - WebSphere Information Integrator
 - 参照： DB2、 IBM
- IBM DB2 OLAP Server のサポート済みバージョン 4
- IIS
 - インストール後のリポート 39
 - インストール前のタスク 15
- iPlanet
 - インストール前のタスク 15
 - iPlanet の前に DB2 Alphablox を開始 43

J

- JDBC ドライバー
 - サポート済み 5

L

- Linux
 - システム要件 6

M

- Microsoft Analysis Services
 - サポート済みバージョン 4
- Microsoft SQL Server
 - サポート済みバージョン 5, 6

N

- NativeConverter ユーティリティ
複数ロケールのサポート 46
- NES
 - 参照： iPlanet

O

- Oracle のサポート済みバージョン 5, 6

P

PDF

Adobe Acrobat 要件 3

S

SAP Business Information Warehouse (SAP BW)

サポート済みバージョン 4

Solaris

システム要件 8

SQL Server、Microsoft

サポート済みバージョン 5, 6

Sybase のサポート済みバージョン 5

T

Tomcat

バージョン 10

U

URL

DB2 Alphablox ホーム・ページのデフォルト 48

W

Web サーバー

サポート済み Windows 6

サポート済みの AIX 7

サポート済みの Solaris 8

サポート済みの Windows 9

Apache

参照： Apache Web サーバー

IIS

参照： IIS

iPlanet

参照： iPlanet

XML MIME 設定 45

Web ブラウザー

参照： ブラウザー

WebLogic、インストール後のステップ 37

WebLogic、BEA

インストール前ステップ 14

インストール・ステップ 21

必要なバージョン 10

WebLogic、Oracle JDBC ドライバーの使用 37

WebSphere Application Server、IBM

インストール 20

インストール後のステップ 35

WebSphere Information Integrator、IBM

サポート済みバージョン 5

WebSphere Portal Server、IBM

インストール 20

インストール後のステップ 35

WebSphere Portal Server、IBM (続き)

必要なバージョン 10

WebSphere クラスター環境、IBM

インストール・ステップ 26

WebSphere、IBM

必要なバージョン 10

Windows

インストール 17, 35

システム要件 9

X

X11 ライブラリー 7, 8

要件 44

XML

MIME タイプ設定、Windows 45



プログラム番号: 5724-L14

Printed in Japan

GD88-6492-02



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12